



*Think Automation and beyond...*



IDEC株式会社

〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号  
TEL: 06-6398-2500(代表)  
<http://jp.idec.com>

IDEC Report 2020



この報告書は環境に  
配慮し、植物油インキを  
使用しています。



# Pioneer the new norm for a safer and sustainable world.

## いつも、ずっと、みんなに新しい安心を

IDECは1945年に「和泉商会」として創業以来、人と機械をつなぐHMI(Human-Machine Interface)の開発を続けてきました。

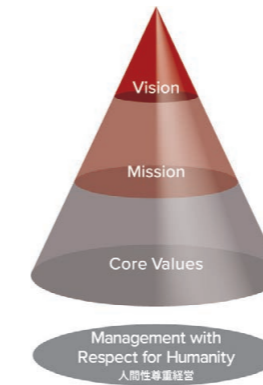
機械の操作スイッチをはじめとする制御機器開発で培ってきたコア技術を活用し、工場などの製造現場やくらしの身近な場面において、人と機械が向き合う接点をより安全に、そして快適にすることで社会に貢献したい。

そのために、人はミスを犯すもの・機械は故障するものという前提で、不測の事態でも人を守ることができる、安全・安心の実現と追究を目指しています。

私たちが75年間貫いてきたこの思いを、世界へ、そして次の100周年へとつなげていくために、新たな時代に求められる新しい価値を創造していきます。

## The IDEC Way

IDECグループは、真のグローバル企業を目指していくための新しい理念として、『The IDEC Way』を制定しました。



**Vision** ————— 私たちが目指す未来  
Pioneer the new norm for a safer  
and sustainable world.  
いつも、ずっと、みんなに新しい安心を

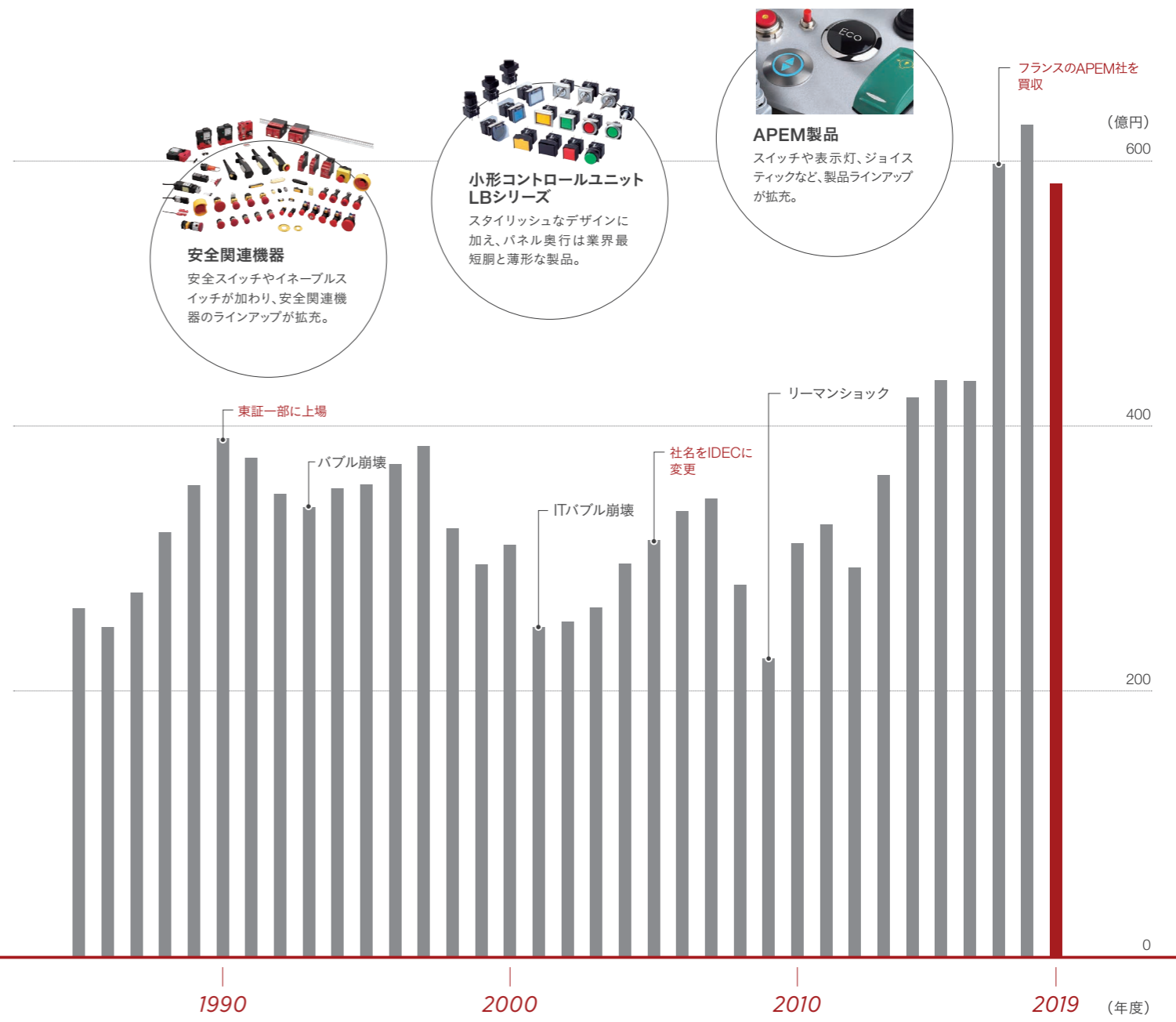
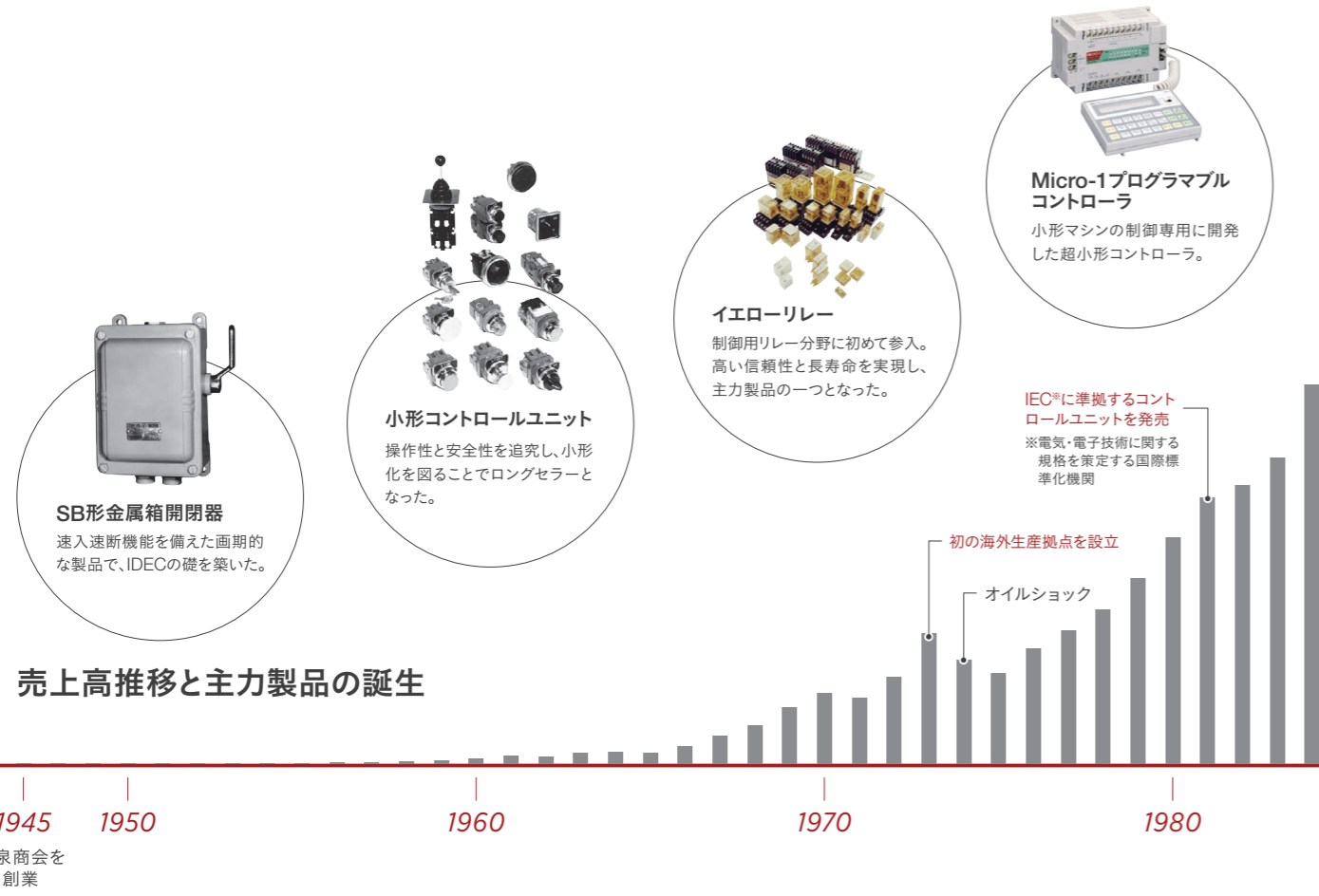
**Mission** ————— 私たちの存在意義・使命  
To create the optimum environment  
for humans and machines.  
人と機械の最適環境を創造

**Core Values** ————— 私たちが共有するべき価値観  
詳しくはP36へ▶



# IDECグループの歴史

## 100周年、さらにその先の未来に向けて グローバルな社会課題の解決に 挑戦していきます。



戦後復興の  
ものづくりを支える

制御機器の総合メーカーとして  
自動化・機械化に貢献

「人と機械の最適環境」を創造

グローバルな  
社会課題の解決に挑戦

IDECは、1945年に「和泉商会」として創業しました。創業当初は電気器具の小売、販売を行っていましたが、当時機械設備などに欠かせない各種開閉器が不足していたことに着目し、高品質の開閉器を開発。産業界から高い評価を受け、ロングセラー製品となり、繊維・化学工場、石油コンビナートなどで活躍する防爆機器とともに、戦後復興のものづくりを支えました。

高度経済成長にともなう計測・制御技術需要の高まりを受けて、制御機器の総合メーカーへと転換。工場設備の自動化・機械化の進展により、電子・システム製品分野にも進出しました。また1970年以降、企業規模の拡大と量産化に対応するため、海外に生産・販売拠点を設立しました。グローバルビジネスの展開を積極的に推進することで、業績も拡大を続け、1990年には東証一部に上場を果たしました。

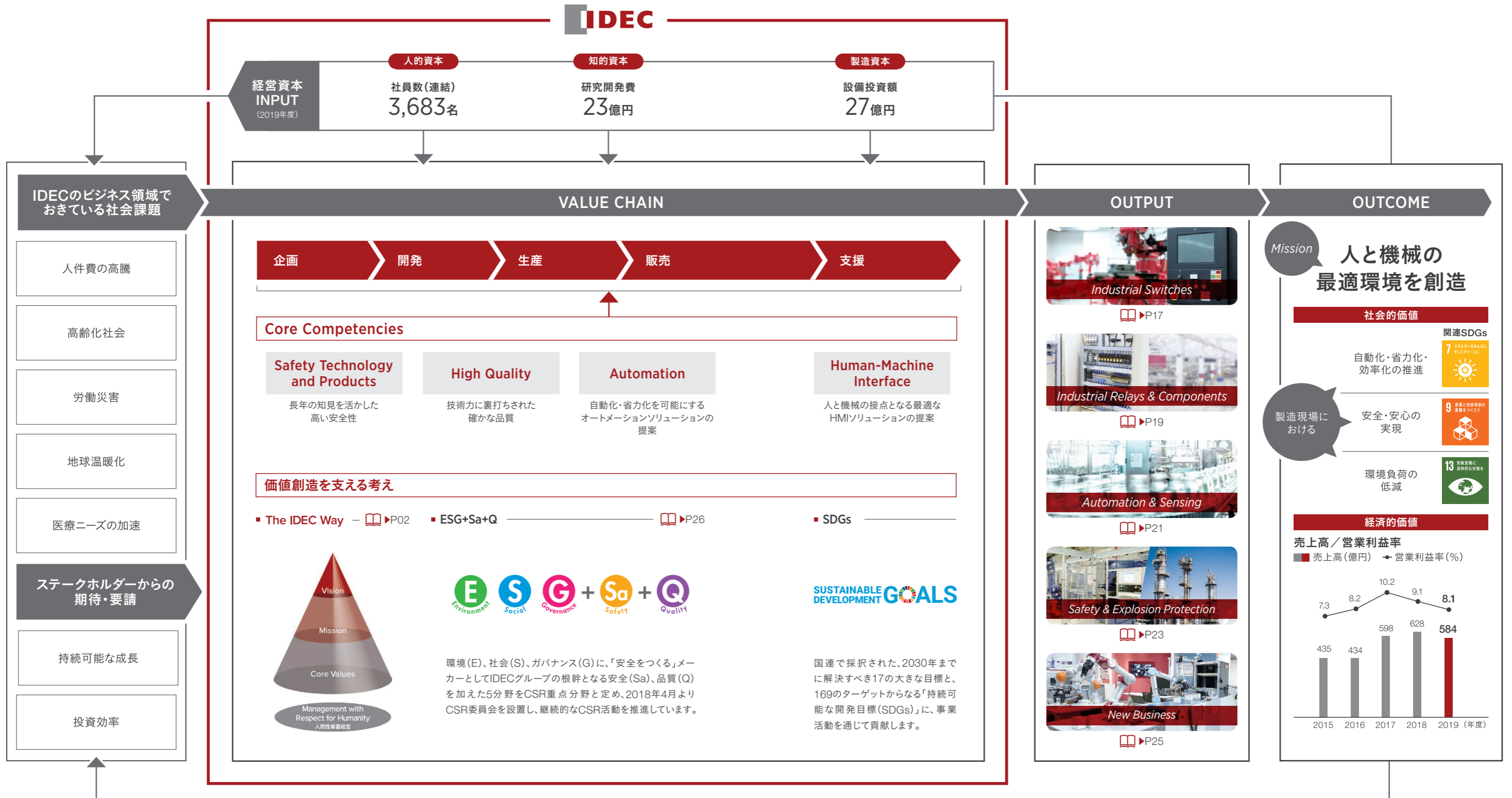
1990年以降、ものづくりの現場は、人と機械が共存する環境が主流となってきました。安全性や生産性に配慮した機械・設備のニーズに応える製品として、国内初の安全スイッチやイネーブルスイッチなどの製品開発を進めました。2000年には、主力工場である滝野事業所に、多品種変量生産を実現するロボット制御セル生産システムを導入し、製造現場の自動化・省力化を推進しました。

創業60周年を迎えた2005年、「IDEC」と社名を変更しました。2017年にはフランスのAPEM社を買収し、グローバルビジネスの拡大を進めるとともに、社会課題の解決に貢献する新規事業にも取り組んでいます。2019年には、新たな経営理念として『The IDEC Way』を制定しました。IDECグループが真のグローバル企業となるための変革と挑戦を続けることで、持続的な成長を実現していきます。

ビジネスモデルと価値創造のプロセス

# Value Creation Process

IDECグループは創業以来、制御技術や安全技術を核とする製品やサービスを社会に提供してきました。事業活動を通じてさまざまな社会課題を解決することで、世界のものづくりの現場とくらしのシーンにおける、自動化・省力化・効率化の推進、安全・安心の実現、環境負荷低減に貢献し、Missionである人と機械の最適環境の創造と、持続可能な社会の実現を目指しています。



## CEO Message 社長メッセージ

## 人と機械の最適環境の創造により、 新たな価値を提供し、 社会課題の解決に貢献します。

代表取締役会長兼社長 船木 俊之



### 『The IDEC Way』に込めた思い

1945年に創業したIDECは、2020年11月に75周年を迎えます。創業以来、制御技術、安全技術を核とするさまざまな製品やサービスを社会に提供してまいりましたが、2017年以降APEM社をはじめとする新たなグループ会社加わり、大きな変化の時を迎えています。このような中で、IDECグループが真のグローバル企業となり、100周年に向けて持続した成長を続けることができるよう、2019年に新たな理念として『The IDEC Way』を制定しました。『The IDEC Way』は、Vision、Mission、Core Valuesの3つの要素で構成しており、その最も重要な基盤として、創業の理念「人間性尊重経営」を位置づけ、継承しております。

Visionである「Pioneer the new norm for a safer and sustainable world. (いつも、ずっと、みんなに新しい安心を)」には、IDECグループがものづくりの未来と新たな可能性を創造し、明日の「当たり前」となる、新しいスタンダードの開拓者になるとともに、全ての人々に幸福と安心をもたらす、より安全で持続可能な社会の実現を目指す、という思いを込めています。

全世界のIDECグループ社員が「One IDEC」として同じ価値観を共有し、私たちの使命を達成していくために、一人ひとりが『The IDEC Way』を実践し、絶え間ない挑戦や変革を続けることで、真のグローバル企業として新たなステージへ飛躍してまいります。

### 見えない資産「ESG+Sa+Q」への取り組み

持続的な成長を実現する取り組みの一環として、事業活動を通じた社会課題の解決により、「持続可能な開発目標(SDGs)」を達成していくためのさまざまな取り組みを行っています。

2009年に国連グローバル・コンパクトに加盟し、10原則に基づいた活動を推進しており、2018年4月にはCSR委員会を立ち上げました。環境(E)、社会(S)、ガバナンス(G)、そしてIDECの強みである安全(Sa)と品質(Q)を重点分野と定め、継続的なCSR活動を推進しており、その中でも特に、創業当時より大切にしてきた安全のDNAを活かしたさまざまな活動を推進しております。

2018年1月には、国連の専門機関であるILO(国際労働機関)傘下のISSA(International Social Security Association)が推進する労働安全衛生のVision Zeroキャンペーンに賛同し、日本で初めて登録いたしました。

Vision Zeroキャンペーンはトップマネジメントが主導し、企業における「安全・健康・ウェルビーイング」を追求するアプローチです。その中では、人材への投資などについても述べられております。IDECは過去から、安全に関する知識と技能を持ったエンジニアやシステムインテグレータの技術担当者の人材育成に力を入れており、2020年4月時点のセーフティアセッサ、ロボット・セーフティアセッサなどの有資格者数は延べ約530名となっております。

またVision Zero推進活動の一環として、主力工場である滝野事業所(兵庫県)が、2019年3月に中央労働災害防止協会(中災防)から労働安全衛生マネジメントシステムISO 45001の認証を、中災防としては電機業界で初めて取得しました。2020年2月には福崎事業所と尼崎事業所(兵庫県)でも取得するなど、安全で働きやすい職場環境づくりを推進しております。

※ウェルビーイングとは、個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。(出展:厚生労働省ホームページ)



A Company of

**VISION ZERO**

Safety. Health. Wellbeing.

### 2019年度の事業概要

米中貿易摩擦や、2020年1月以降に発生した新型コロナウイルスの世界的流行などの影響により、日本だけでなく中国や米州、欧州などにおいて厳しい市場環境となりました。

注力業界である工作機械や半導体、ロボット、自動車などにおいても、需要低迷や設備投資の先送りなどにより受注が減少いたしました。

グローバルな事業環境の悪化により、2019年度\*の連結売上高は584億円(前年度比7.0%減)となりました。利益については、制御用操作スイッチをはじめとする主力製品群の売上が減少した影響から、営業利益は47億円(前年度比17.9%減)、営業利益率8.1%となりました。

一方厳しい事業環境の中でも、国内外の生産拠点の再編など、収益性向上を図るための施策を推進いたしました。

またAPEM社とのさらなるシナジー創出に向けた取り組みとして、中国や欧州においてIDECとAPEMの販売、マーケティング、物流拠点を統合し、売上拡大を推進しております。

製品においては、労働力不足の課題を抱えるものづくり現場において、配線作業やメンテナンス作業の大幅な省力化を実現する、Push-in接続方式を採用した製品群を2019年度から順次発売しております。制御用操作スイッチや制御用リレーをはじめ、各種製品のラインアップを拡充することで、安全性と信頼性を向上しつつ、省力化と効率化でものづくり現場の働き方改革を推進しております。

※2019年度は2019年4月から2020年3月までの期間です。

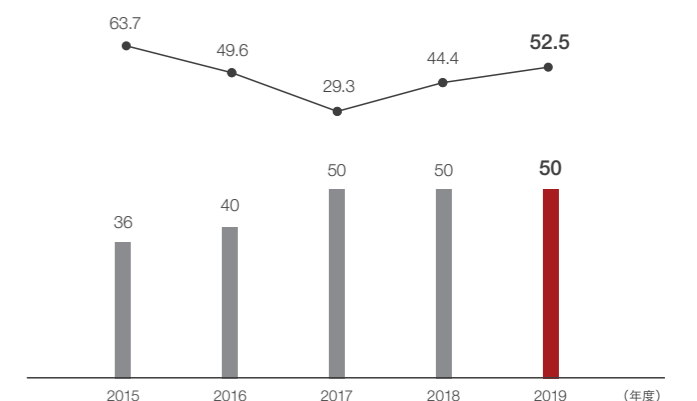
### 株主還元

IDECグループでは、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに、株主さまに対する安定的な配当の維持と適正な利益の還元を実施することを経営の最重要施策の一つと認識しております。2019年度の1株当たりの年間配当金は50円となりました。

今後も株主の皆さまへの利益還元を重視したうえで、業績、外部環境などの変化に対応した機動的な配当政策を展開してまいります。

### 1株当たり配当金と配当性向の推移

■ 1株当たり配当金(円) → 配当性向(%)



## 長期目標

- HMI (Human-Machine Interface) のグローバルNo.1カンパニーへ。
- 世界一安全・安心を追究・実現する企業に。
- 社会課題に対応する新規事業の推進。

## 長期目標達成に向けた施策

IDECは長年、FA(ファクトリー・オートメーション)を中心としたものづくりの現場において使われる、多様なコンポーネンツを提供してきました。しかし長期目標を実現し、持続的な成長を図っていくためには、事業ドメインの拡大が必要不可欠となることから、M&Aや業務提携などを積極的に推進することで真のグローバル企業となるべく変革を図っております。

2017年にはフランスのAPEM社を買収し、欧州を中心としたグローバル販売網を獲得するとともに、車載や特殊車両(建設用車両、農業用車両など)といった、FA業界以外に事業ドメインを拡大することが可能となりました。APEM社とのシナジーをさらに拡大していくことで、人と機械の接点となるHMI分野において、グローバルNo.1となっていくための基盤づくりを進めております。

IDEC AUTO-ID SOLUTIONS株式会社と、2017年にグループ化した株式会社ウェルキャットは、2020年4月に統合し、物流やリテール分野なども含めた多様な業界向けに、自動認識機器事業の拡大を図っております。

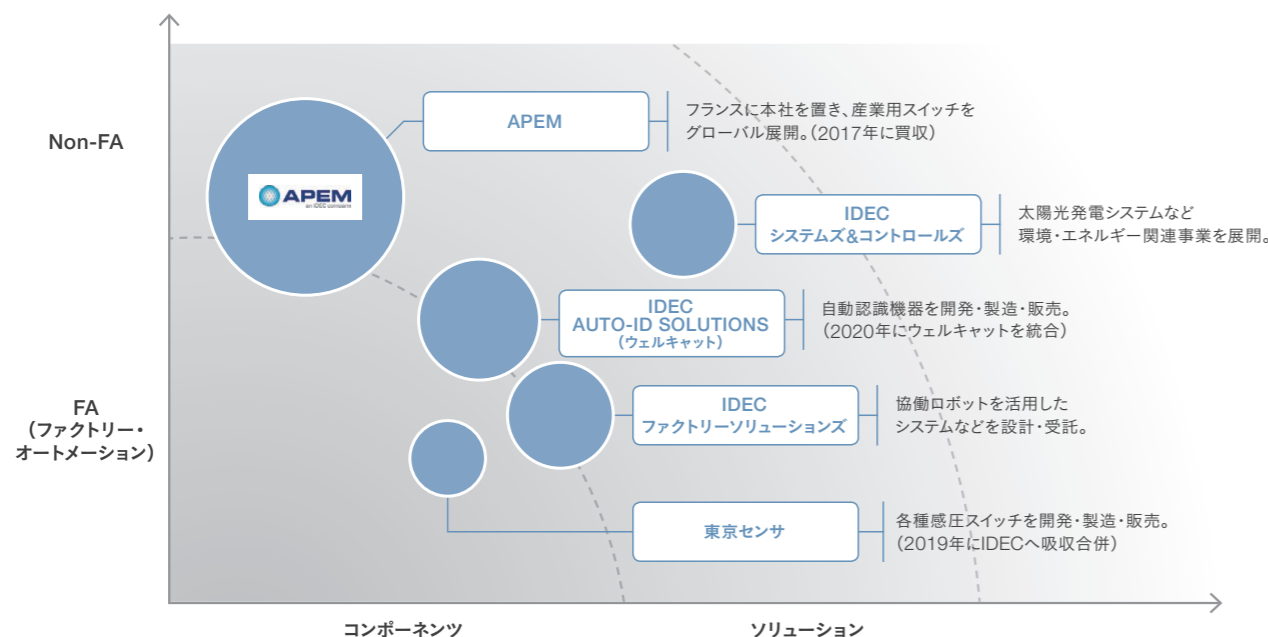
2018年に買収した、各種感圧スイッチに強みを持つ株式会社東京センサは、2019年にIDECへ吸収合併し、安全・安心を実現する製品ラインアップの拡充・強化と、新たな市場創出に向けた取り組みを推進しております。

IDECシステムズ&コントロールズ株式会社においては、太陽光発電システムや自家消費型ソーラー発電など、エネルギーマネジメントに関するワンストップソリューションを提供しております。

IDECファクトリーソリューションズ株式会社では、安全柵なしで人と同じ現場で働くことのできる協働ロボットと、多様なコンポーネンツを組み合わせることで、顧客ニーズにマッチした各種システムを提供しております。

既存事業の強化に加え、制御技術を活用した環境・エネルギー事業や協調安全ロボットシステム事業といった新規事業を拡大することで、多様な社会課題の解決に貢献し、持続可能な社会の実現を目指しております。

## IDECグループの事業ドメインの拡大



## 2020年度の取り組み方針

- 事業活動を通じた社会課題の解決を通して、持続可能な成長を実現するとともに、高収益体質に変革することで企業価値の向上を図る。
- 企業文化の刷新に取り組み、グローバルベースで「One IDEC」を目指す。

## 2020年度の取り組み

IDECでは成長戦略の推進、収益性の向上、経営基盤の強化の3つを基本戦略として掲げ、具体的な取り組みを進めております。成長戦略の推進においては、社会課題に則した安全・安心ビジネスのさらなる拡大を目指しており、その取り組みとして、次世代の安全思想である「協調安全/Safety2.0」の考え方に立ち、多様な安全関連機器のアプリケーションをご提案しております。

2019年には日本の大手ゼネコンにおいて、IDECグループの安全のノウハウや技術、製品などを活用したシステムを採用いただきました。IDECグループが開発した、工事現場での生産性と安全性の両立を可能とするこのシステムは、一般社団法人セーフティグローバル推進機構が、労働災害をはじめ各種災害や事故防止の観点から推進し、社会に普及させることを目的に創設した「Safety2.0適合審査登録制度」を活用し、適合登録を受けております。

市場特性や顧客ニーズをきちんと把握したうえで最適なソリューションを提案することで、世界一安全・安心を追究・実現する企業を目指しております。

また、Push-in対応製品のラインアップ拡充や、IoTを実現するソリューションの拡販、協調安全ロボットシステムなど新規事業の拡大によるさらなる成長の実現に加え、生産・物流体制の見直しや納期の短縮、事業の選択と集中などにより、収益性の改善を図ってまいります。

経営基盤の強化に向けた取り組みとしては、働き方改革を積極的に推進しております。2020年度より、グローバルなIT基盤の導入を予定しており、全IDECグループが同じツールを使うことでコミュニケーションの活性化を図ります。その他にも、ロボットによる業務プロセスの自動化を行うRPA(Robotic Process Automation)の導入加速により、業務効率をさらに向上してまいります。

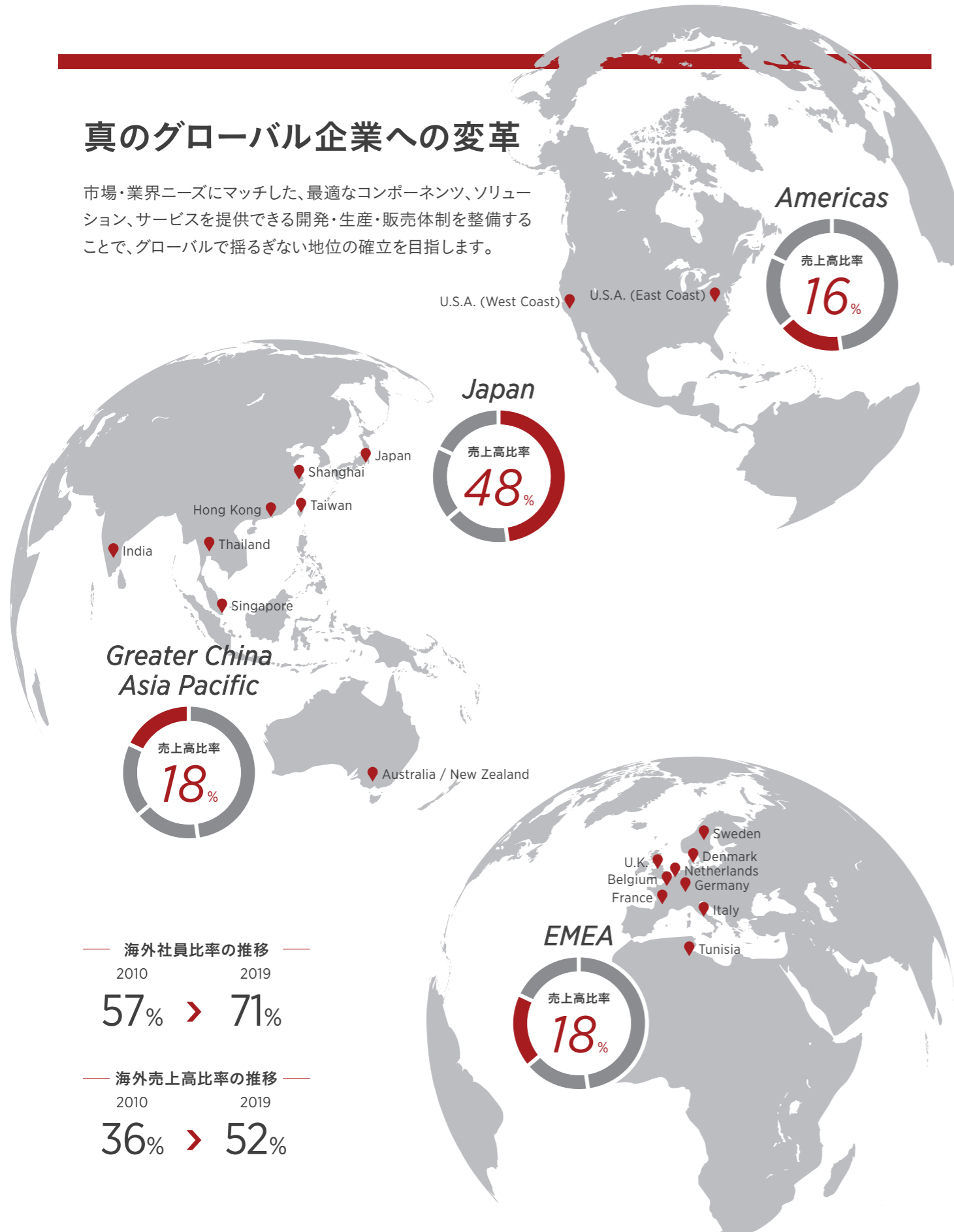
## 基本戦略への現在・未来のアプローチ

基本戦略	2019年度実績	2020年度の取り組み
<b>「成長戦略」の推進</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長に紐づく新製品の投入</li> <li>新規事業の拡大</li> <li>地域・業界軸での事業拡大</li> <li>M&amp;Aや提携を含めた戦略的パートナーシップの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Push-in対応製品やセンサ、安全関連機器などの新発売</li> <li>インド版社の設立</li> <li>自律走行搬送ロボット(AMR)のリーディングカンパニーMIR社と日本の販売代理店契約を締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Push-in対応製品のラインアップ拡充</li> <li>Safety2.0を実現する製品の発売による啓発、浸透</li> <li>IoTソリューションの拡販</li> <li>アジア・パシフィックでの事業拡大</li> <li>協調安全ロボットシステムの導入加速</li> </ul>
<b>「収益性」の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>材料・製品の統合・品目削減</li> <li>生産体制の見直し・納期短縮</li> <li>コストダウンの推進</li> <li>業務生産性の向上</li> <li>事業の選択と集中</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品品目削減による生産性の向上</li> <li>日本、中国における生産・販売拠点の統合</li> <li>日本にアセンブルセンターを新設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル物流網の最適化</li> <li>生産の自動化</li> <li>業務プロセスの見直しと効率化</li> <li>不採算事業の構造改革</li> </ul>
<b>「経営基盤」の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>目指す方向性の明確化</li> <li>人材マネジメントシステムの強化</li> <li>デジタル化による働き方改革の推進</li> <li>コミュニケーションの活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「The IDEC Way」の制定</li> <li>研修制度の再構築と拡充</li> <li>従業員意識調査の実施と課題の把握</li> <li>柔軟な勤務体系構築への着手</li> <li>RPAの全社展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「The IDEC Way」のさらなる浸透</li> <li>事業戦略の見直し</li> <li>従業員意識調査結果等を踏まえた人事制度改革の推進</li> <li>経営環境に応じた人材確保と育成の強化</li> <li>グローバルなIT基盤導入による効率化の推進</li> </ul>

地域戦略

## 真のグローバル企業への変革

市場・業界ニーズにマッチした、最適なコンポーネント、ソリューション、サービスを提供できる開発・生産・販売体制を整備することで、グローバルで揺るぎない地位の確立を目指します。

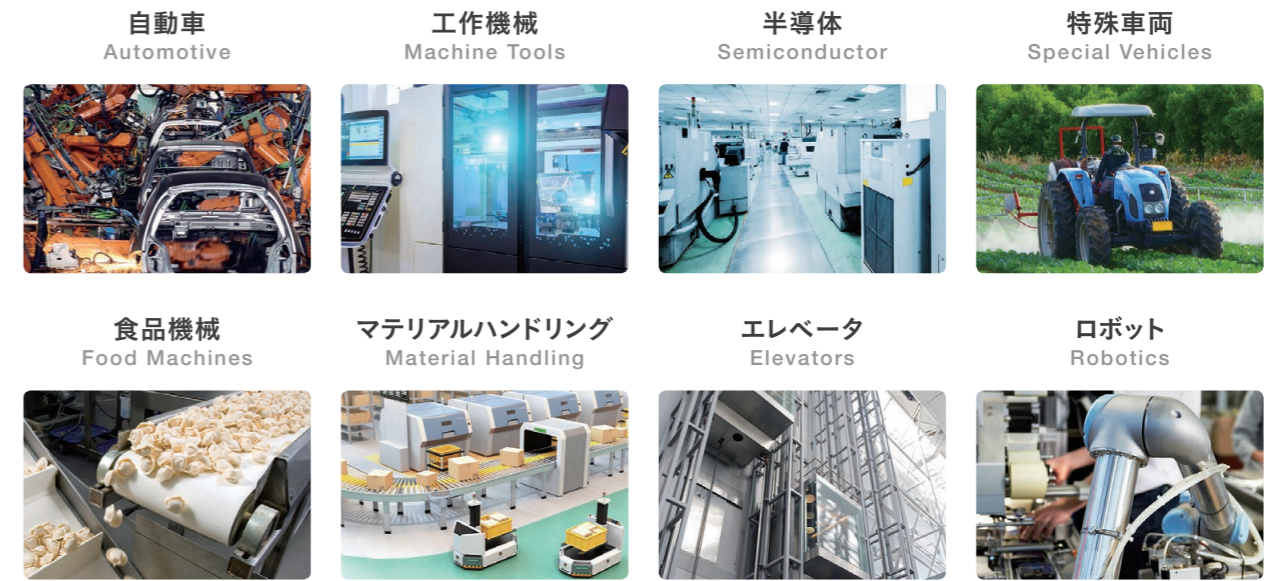


海外社員比率の推移  
2010 2019  
**57% > 71%**

海外売上高比率の推移  
2010 2019  
**36% > 52%**

## 8つの注力業界

長年培ってきたFA(ファクトリー・オートメーション)の知見やノウハウを活かし、IDECグループが強みを持ち、今後成長が期待できる8つの業界に注力しています。IoTの普及や自動化の進展、産業現場の安全確保など、さまざまな社会課題や顧客ニーズに柔軟に対応するため、幅広いソリューションを提供するとともに、各地域における注力業界を定めることで、グローバルビジネスの拡大を推進しています。



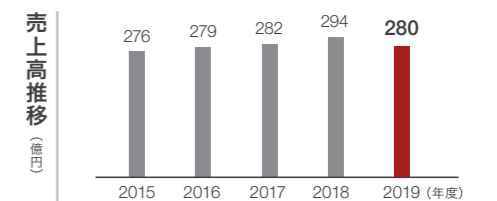
## Japan

| 生産拠点 **6** | 販売拠点 **28** | 代理店 **90** | 社員数 **1,080** | 売上高比率 **48%** |

### 事業概況

売上については、自動認識機器などオートメーション機器が好調に推移したものの、工作機械をはじめとする主要顧客の市況悪化にともない、スイッチなどの売上が減少しました。

一方で、生産拠点の再編や自動化など、効率化を推進しました。



### 製品の特長

スイッチの売上が最も大きく、安全・防爆、インダストリアルコンポーネントに次いで、オートメーション、新規事業など幅広い製品構成となっています。

### 販売業界の特長

工作機械やロボット、半導体、自動車業界向けの売上比率が比較的高いものの、各業界向けに広く販売実績があります。

### TOPIC

2019年5月に、各拠点に分散していた製品のアSEMBル機能を集約した「アSEMBルセンター」を兵庫県に新設しました。RFIDカードやウェアラブル端末、タブレットによる組立支援システムなどを導入することで、誤出荷を防止し、効率化と生産性向上を図っています。



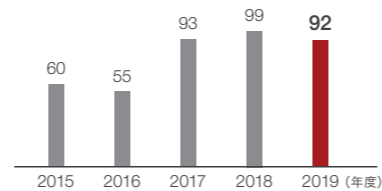
## Americas

| 生産拠点 1 | 販売拠点 4 | 代理店 190 | 社員数 211 | 売上高比率 16% |

## 事業概況

売上については、オートメーション機器は増加したものの、スイッチに加え、制御用リレーなどインダストリアルコンポーネンツが減少しました。また円高の影響も受けましたが、石油・ガスや食品機械といった業界に注力し、オートメーション機器や安全関連機器などの拡販を推進しています。

売上高推移 (億円)



## 製品の特長

米国販社設立当初より強みのあるインダストリアルコンポーネンツに加え、オートメーション、スイッチが主力事業です。

## 販売業界の特長

石油・ガス業界や、食品機械、半導体業界などに注力しています。

## TOPIC

APEM社とのシナジー創出に向けて、相互の販路活用と新規チャネルの開拓を実施するとともに、オートメーション製品群のマーケティング機能を強化することで、事業拡大を推進しています。



## Greater China

| 生産拠点 4 | 販売拠点 11 | 代理店 140 | 社員数 1,114 |

## 事業概況

売上については、米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響により、主力製品である制御用リレーなどのインダストリアルコンポーネンツやスイッチなどの売上が減少しました。

一方、中国におけるガバナンス体制の強化に加え、システムソリューションの拡充に向けた台湾の販売体制構築を推進しています。

## 製品の特長

スイッチとインダストリアルコンポーネンツが主力事業です。需要拡大中の安全関連機器の販売拡大にも注力しています。

## 販売業界の特長

工作機械やエレベータに加え、半導体や特殊車両向けの販売に強みを持っています。

## TOPIC

多様化する顧客ニーズにスピーディに対応していくため、IDECとAPEM社の上海販社を統合し、開発拠点である愛徳克電子科技の事務所と同じ新オフィスに移転しました。それぞれの強みを活かすことで、ビジネスチャンス拡大に向けて、「One IDEC」の新体制を構築しています。



## EMEA (欧州・中東・アフリカ)

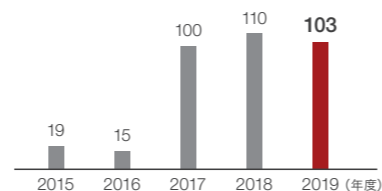
| 生産拠点 7 | 販売拠点 8 | 代理店 110 | 社員数 1,076 | 売上高比率 18% |

## 事業概況

売上については、上期まではAPEM社のスイッチが好調に推移したものの、景況感の悪化や円高の影響などから、下期は欧州において減少しました。

なお、欧州におけるIDEC製品の売上拡大に向けて、APEM社の販路を活用するなど、シナジー拡大に向けた取り組みを実施しています。

売上高推移 (億円)



## 製品の特長

APEM社の製品群に加え、APEM販路を活用することで、IDECのスイッチや安全関連機器の売上も拡大しています。

## 販売業界の特長

特殊車両など、FA以外の業界向けの売上が大きく、フランスやイギリス、ドイツなど幅広い地域に向けて販売しています。

## TOPIC

IDECの生産技術を活かし、2019年からデンマークの生産拠点に新しい自動組立機を順次導入しています。またAPEM社の拠点を再編することで、生産性と効率性の向上を図っています。



## Asia Pacific

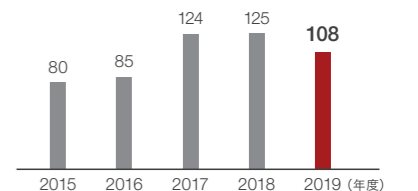
| 生産拠点 1 | 販売拠点 4 | 代理店 50 | 社員数 202 | 売上高比率 18% ※ |

※中国とアジア・パシフィックとの合計数値

## 事業概況

売上については、スイッチや安全関連機器、インダストリアルコンポーネンツなどの製品群が減少しましたが、販売拠点の拡大・強化により、基盤の整備を図っています。

売上高推移 (億円)



## 製品の特長

中国同様、スイッチとインダストリアルコンポーネンツが主力事業です。さらなる安全・安心を実現するため、東京センサ製品の販売も推進します。

## 販売業界の特長

シンガポールに地域統括会社を設置し、自動車業界や公共投資向けに注力しています。新しくインドに販売会社を設立し、成長市場であるインドでの事業拡大に取り組みます。

## TOPIC

継続的かつ安定的な成長が期待されるインドに、2020年1月、販売会社を設立しました。自動車業界を注力市場とし、多様な製品をソリューションとして提案することで、事業拡大を推進していきます。





製品紹介

# Our Products

時代のニーズに対応した、  
最適な製品・ソリューションを  
提供します。

IDECは、時代とともに変化する顧客ニーズに  
お応えするため、制御技術を核とする  
さまざまな製品・ソリューションに加え、  
コア技術を活用した新しい価値を提供することで、  
ものづくりとくらしの未来を支えています。



Industrial Switches

スイッチ事業 [P17](#)

**IDEC**



■ 制御用操作スイッチ



■ 非常停止用押ボタンスイッチ

**APEM**  
an ECOSYSTEM



■ 産業用スイッチ

■ ジョイスティック

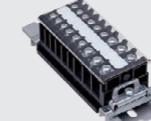


Industrial Relays & Components

インダストリアルコンポーネンツ事業 [P19](#)



制御用リレー



端子台



サーキットブロテクト



スイッチング電源



産業用LED照明



Automation & Sensing

オートメーション事業 [P21](#)



プログラマブルコントローラ



ティーチングペンダント



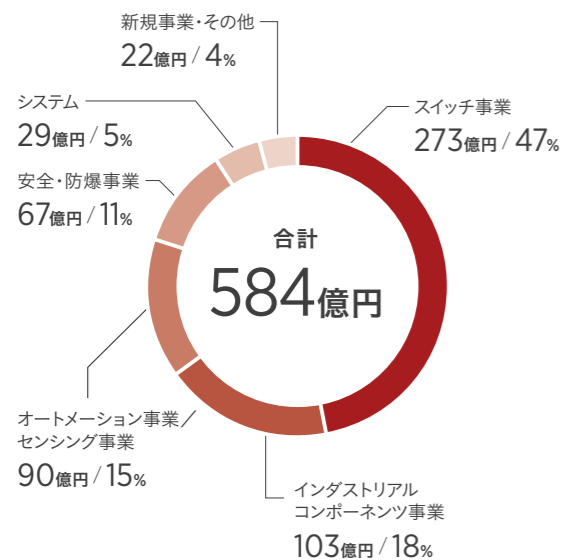
プログラマブル表示器

センシング事業 [P21](#)



センシング機器

2019年度 売上高構成比



Safety & Explosion Protection

安全・防爆事業 [P23](#)



セーフティレーザスキャナ



安全スイッチ



イネーブススイッチ



防爆表示器ボックス



防爆コントロールボックス



防爆ネットワークカメラシステム



New Business

新規事業 [P25](#)



協調安全ロボットシステム



環境・エネルギー関連事業



次世代農業ソリューション

※2019年度より、製品種類別の名称を変更いたしました。



Industrial Switches

## スイッチ事業

### スイッチ分野のリーディングカンパニーとして、人と機械の最適環境を創造します。

創業以来培ってきた制御技術により、FA(ファクトリー・オートメーション)機器だけでなく生活の身近なシーンにおいても、革新的なソリューションをグローバルに提供し、安全・安心な社会の実現に貢献しています。

製品の品質や耐久性、安全性を追究するとともに、使いやすさ、デザイン性にもこだわった製品ラインアップを備えることで、IDECグループは制御用操作スイッチのグローバルNo.1カンパニーを目指し、人と機械をつなぐさまざまなソリューションを提供してまいります。

### 売上高推移



### 2019年度の業績

日本においては、工作機械やロボットなど主要業界向けの売上が全般的に減少しました。

また、前年度まで好調だったAPEM社についても、為替や市場環境の変化により減速したことなどから、米州、欧州、アジア・パシフィックなど幅広い地域で売上が減少しました。

## TOPIC

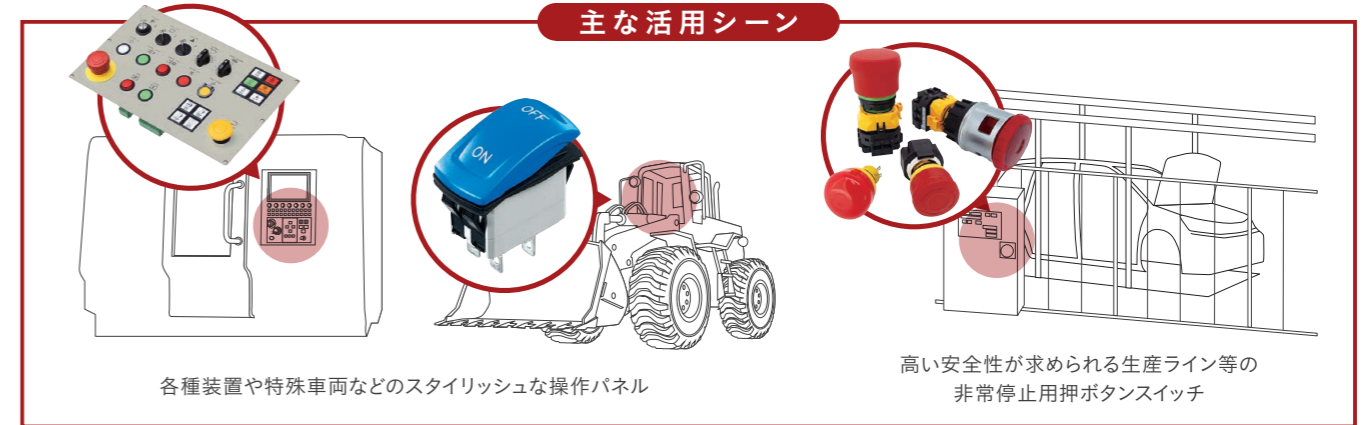
### 業界初のLED球を搭載したスイッチ

1つで6色を表現することができるLED球を開発し、業界で初めてスイッチと表示灯に搭載しました。φ22コントロールユニットHW・CWシリーズに採用したこのLED球は、レンズを入れ替えるだけで6つの色を表現できることから、色変更・在庫管理の工数削減が可能となります。

また記銘した文字の視認性を向上するとともに、色覚の個人差を問わず、多くの方にとって見やすい配色であるカラーユニバーサルデザイン(CUD)認証を取得\*した製品をオプションとして用意するなど、多様な製品ラインアップで現場の課題解決に貢献します。



\*日本国内の認証で、HWシリーズの一部機種で対応

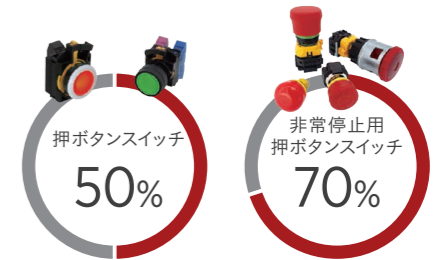


### 事業戦略

#### 日本で圧倒的なシェアを持つ主力製品

1958年に制御用操作スイッチの販売を開始して以来、時代に即したニーズに合わせて多種多様な製品を開発し、製品ラインアップを拡大するとともに、設計の見直しや品質改良を重ねることで日本国内で高い市場シェアを獲得してきました。

これからも新しい時代に求められる製品を開発することで、他社との差別化を図り、競争力の強化を推進していきます。



主力製品の国内シェア(2020年2月末時点)  
※自社調べ

#### 制御用操作スイッチの「グローバルシェアNo.1」へ

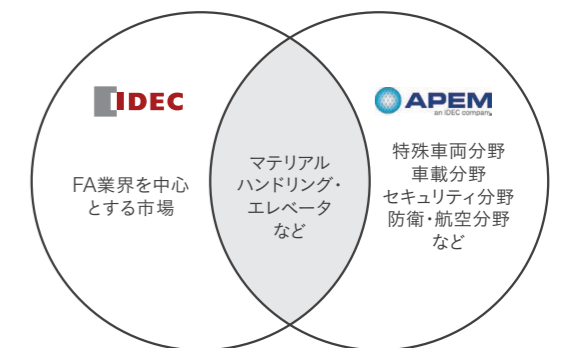
近年、さまざまな現場で多様な人材が必要とされていることから、誰でも安全に、簡単に、そして効率よく働ける環境を整えていくことが求められています。IDECではさらなる安全性を追究した新製品の開発を継続するとともに、省配線・省スペース・高い信頼性を実現する配線方式であるPush-in接続方式を採用した製品のラインアップ拡充などに取り組んでいます。



Push-in接続方式を採用した製品

2017年には、欧州で高い知名度とシェアを持つフランスのAPEM社が、アジア地域に強みを持つIDECのグループ会社に加わったことで、地域ポートフォリオの適正化を図ることができました。欧州におけるAPEM社の広範な販売網を活用することでIDEC製品の売上を拡大するとともに、APEM製品のラインアップ拡充により、米州や日本などにおいて新規市場への参入や顧客提案の強化を図っています。またAPEM社の主力販売業界は、FA業界を中心とするIDECとは異なることから、それぞれが強みを持つ製品や地理的プレゼンスなどの相互補完により、グローバルでシナジーを創出し、事業の拡大を推進しています。

制御用操作スイッチのリーディングカンパニーとして、社会のニーズに対応した新しい製品とソリューションを創造し、お客様の生産性向上のためにHMI環境を革新し続けていきます。



IDECとAPEMの主力販売業界



Industrial Relays & Components

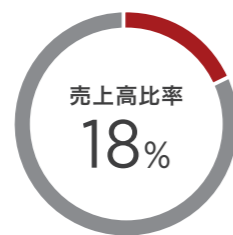
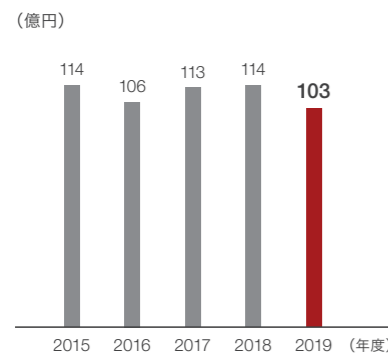
## インダストリアルコンポーネンツ事業

### 幅広いラインアップで、お客さまの課題を解決します。

インダストリアルコンポーネンツは、機械装置や生産ラインを操作・制御するために使われる、制御盤や制御部に組み込まれる各種電気機器の総称で、生産現場はもちろんのこと、エレベータ制御を含むビルの設備管理や自動倉庫、工作機械や半導体製造装置など幅広いシーンで使用されています。

装置や設備のインテリジェント化や省スペース化、品質の安定化のニーズがますます強まっていることから、IDECでは制御盤内の各種機器に新しい技術を付加し、作業効率の向上や利便性の高い快適な生産環境を提案することで、さまざまな課題解決をサポートし続けています。

### 売上高推移



### 2019年度の業績

米中貿易摩擦や新型コロナウイルスの影響などにより設備投資需要が減少したことから、日本に加え、売上寄与の大きい中国を中心とするアジア・パシフィックや米州などにおいても、制御用リレーや端子台などの売上が減少しました。

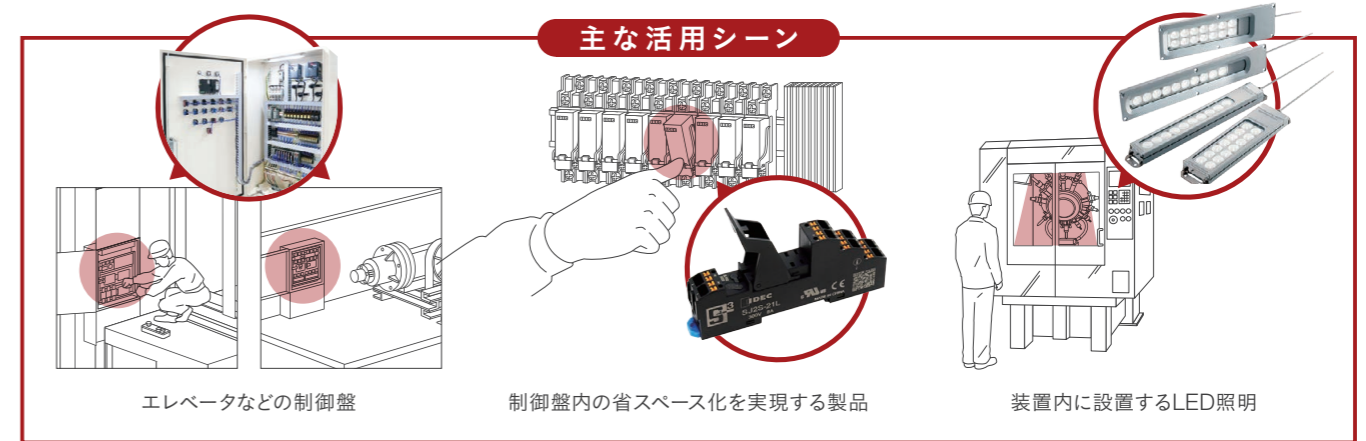
## TOPIC

### Weidmüller Interface GmbH & Co. KG社との協業

世界トップクラスのシェアを持つ電気接続機器の開発・生産・販売を行ってきた会社で、端子台のリーディングカンパニーであるWeidmüller社と、2019年3月に戦略的なパートナーシップ契約を締結しました。

Weidmüller社製のDINレール端子台の日本独占販売を開始するとともに、高いPush-in技術を活かした各種製品の開発や、技術交流による共同開発なども含めた戦略的パートナーシップを推進しています。

Innovation by **IDEC** **Weidmüller**



## 事業戦略

### 制御盤のトレンド

労働力不足の課題を抱えるものづくり現場において、工場設備を制御する制御盤に加え、配電盤<sup>※1</sup>や分電盤<sup>※2</sup>といった各種盤に内蔵する機器選定・配置を設計する電子CADへの対応、また各種盤の現場設置時や定期メンテナンス時に一定の品質を保ちつつ効率的に各作業を実施するべく、今まで業界で普及していた「ねじ方式」に代わり「Push-in接続方式」の普及を推進しています。接続方法のPush-in化により、配線作業や保守作業での大幅な工数削減と機器のスリム化が実現できることから、すでにPush-in接続方式が定着している欧州をはじめ、米州や日本でも今後ますます普及が拡大していくことが見込まれます。

※1: 高圧受電された電気を各場所へ配電する製品  
※2: 配電された電気を各機器へ分配する製品



### Push-in対応製品の拡充とIDECのサポートサービス

Push-in接続方式の新製品として、SJ、SUシリーズのリレーソケットを発売しました。今後もPush-in接続方式に対応した製品の拡充を図っていきます。また、IDECではPush-in対応機器の導入をサポートするために、手動に比べ高品質に短時間でフェルール端子と電線を圧着することができる自動圧着機など、Push-in導入に必要な各種工具の販売・レンタル・校正などのサービスも実施しています。



### 全ての思いをひとつに

IDECのDNAである省(Saving)と安全(Safe)は、1970年代後半から浸透・追究し続けてきたテーマです。昨今、急速なインテリジェント化が進み、耐環境性・高信頼性が求められ、人材不足などの社会課題に向き合うことが必要です。これらの課題解決を実現するために、「Safe, Simple & Smart = S<sup>3</sup>(エスキューブコネクト)」を定め、より革新性と持続性をもたらす製品やサービスを社会へ提供していきます。



#### Safe

世界一安全を追求する企業として誰もが安全かつ安心して使える製品

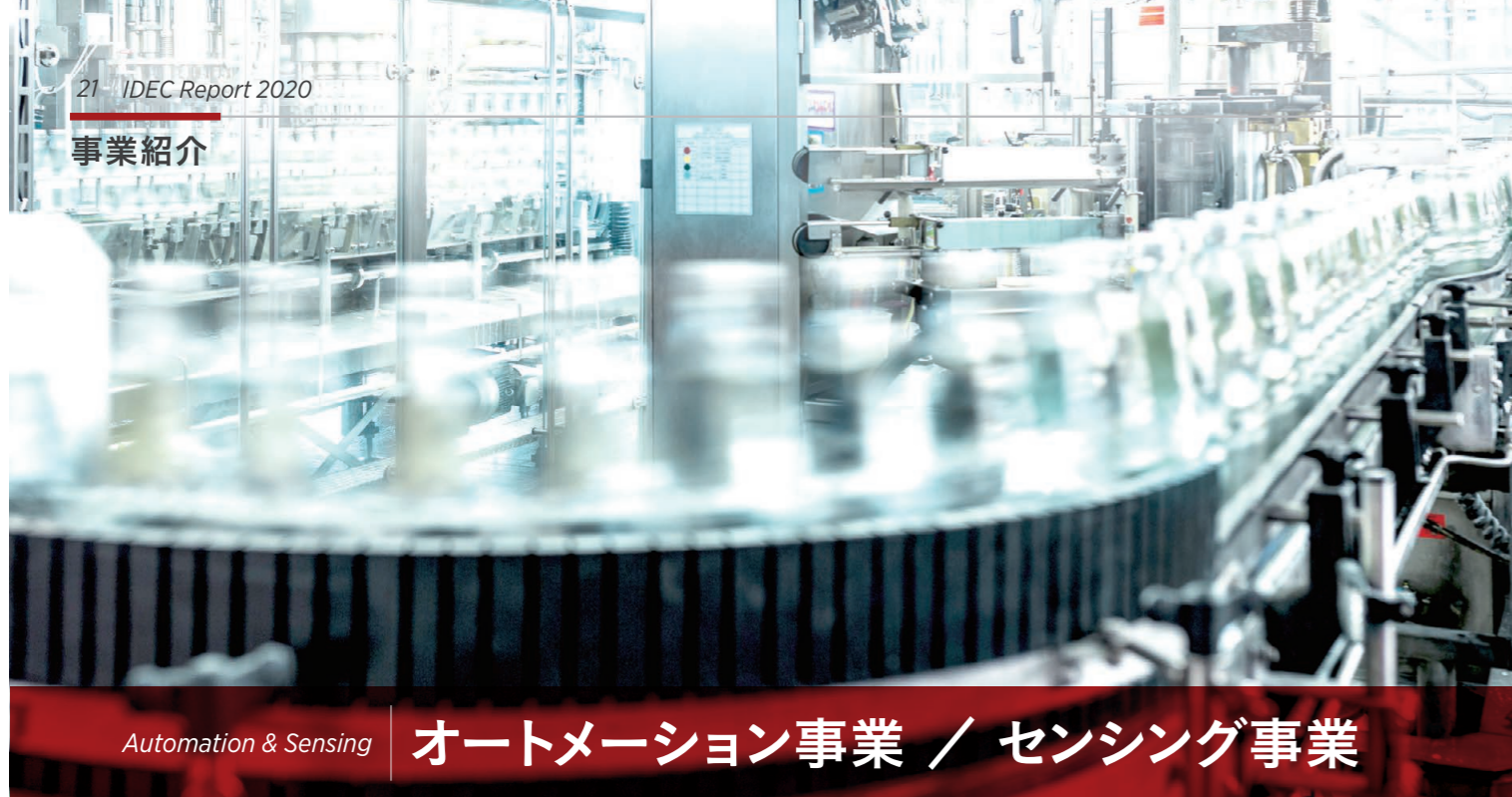
#### Simple

熟練度を問わない簡単接続で全てのお客さまから愛される製品

#### Smart

未来を見据えるスマートな選択で「省工数」「省スペース」をかたちにする製品

事業紹介



Automation & Sensing

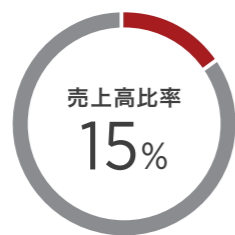
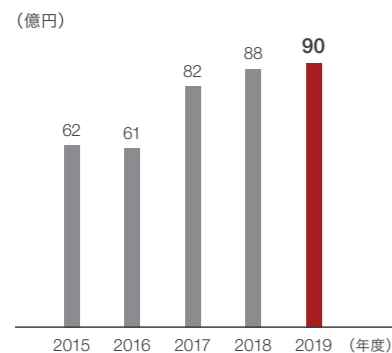
オートメーション事業 / センシング事業

IoTやIndustry 4.0時代に最適なソリューションを提供します。

労働人口の減少やIoTなどの進展にともない、遠隔監視・操作への対応に加え、作業の高効率化や自動化推進のキーデバイスとなる製品の需要が高まっていることから、多種多様な製品をラインアップしています。

機械設備や生産ラインを制御するプログラマブルコントローラや、快適な操作環境を実現するプログラマブル表示器などのオートメーション機器に加え、状態の変化や物体を検出するセンサ、トレーサビリティ用途での需要が拡大するコードリーダー、RFIDなどの自動認識機器といったセンシング機器など幅広いソリューションを提供することで、生産の自動化・効率化に貢献しています。

売上高推移



2019年度の業績

日本においては消費増税前の需要増加により、リテール向けを中心としたバーコードリーダーなど、自動認識機器の売上が堅調に推移しました。

一方、プログラマブルコントローラやプログラマブル表示器といったオートメーション機器や、各種センサなどのセンシング機器については、市場環境の悪化などにより売上が減少しました。

TOPIC

操作性を向上したプログラマブル表示器ハンディタイプ

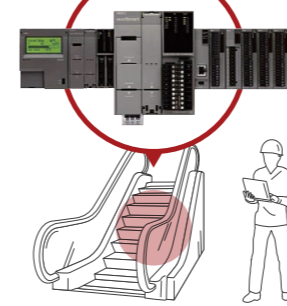
軽量構造ながら、高解像度の4.3インチディスプレイを搭載するとともに、人間工学に基づいたデザインで、使いやすく長時間作業の負担を軽減するプログラマブル表示器ハンディタイプの新製品「HG1P形」を、2019年5月に発売しました。

HG1P形は、産業用ロボットなどに実際の作業や動作を教示する際などに使われるティーチングペンダントの用途だけでなく、従来の固定式操作盤をモバイル化することができるため、操作盤のコストとスペースを削減します。また、堅牢性も兼ね備えるなど多様化する生産現場に対応した製品で、操作対象に近づいて操作することによって、より確実な操作が可能となります。



プログラマブル表示器  
ハンディタイプ「HG1P形」

主な活用シーン



遠隔監視・操作を実現するプログラマブルコントローラやプログラマブル表示器



作業効率を向上させるウェアラブル端末

事業戦略

自動認識機器事業を強化

2017年に、コードリーダーなど自動認識機器の分野において高い技術力を持つ株式会社ウェルキャットをグループ化し、製品ラインアップの拡充と販路の拡大を図りました。

また2020年4月に、RFID、ハンディターミナルなどのウェアラブル端末やソフトウェア開発に強みを持つ株式会社ウェルキャットを、リテールや物流向け製品に強みを持つIDEC AUTO-ID SOLUTIONS株式会社に統合することで、双方の強みを活かした事業拡大を推進しています。

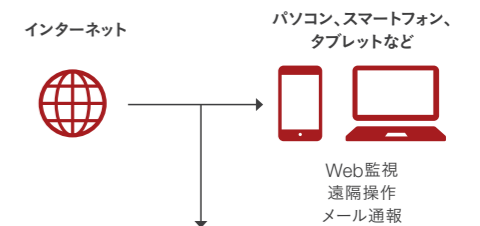


IoTを実現するソリューション提案を推進

あらゆるものが「つながる」時代に最適な、プログラマブルコントローラ、プログラマブル表示器、センサ、コードリーダーなどにIoTを実現する機能を強化し、さまざまな課題解決に貢献するソリューション提案を推進しています。

遠隔監視と操作システムのイメージ

- データをためる** 現場で必要なデータを検出/測定します。
- データを送る** インターネット上のサーバにデータを送ります。
- データを見せる** 遠隔地でも、パソコン、タブレットなどの端末から現場の状況を知ることができます。
- メールで通報する** 異常が発生する警報メールを発信します。
- 遠隔地から操作する** 離れた場所から現場の設定を変更できます。IO-Link対応のセンサではパラメータの変更が可能です。





Safety & Explosion Protection

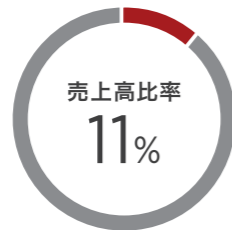
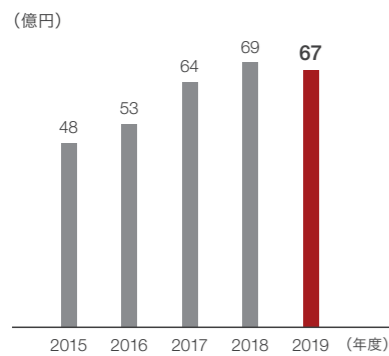
## 安全・防爆事業

世界一安全・安心を追究・実現する企業として、安全性と生産性向上に役立つソリューションを提供します。

IDECは創業以来、人と機械の安全な環境を考え、安全性、信頼性、使いやすさに徹底的にこだわった多様な安全関連機器や防爆関連機器を開発し、安全性と生産性を向上させるソリューションを展開しています。

人と機械の協調安全を実現する次世代の安全思想「協調安全/Safety2.0」の考え方に立ち、人が危険を回避だけでなく、機械も人の危険を察知して安全を制御することができる新たな安全関連機器アプリケーションをご提案すると同時に、新たな規格づくりや、コンサルティングといった安全の普及活動にも力を入れています。

### 売上高推移



### 2019年度の業績

グローバルな設備投資需要の減少により、主に海外において安全スイッチやセーフティレーザスキャナなど安全関連機器の売上が減少しました。

防爆関連機器についても、日本において売上が減少しました。

## TOPIC

### 安全・安心な生産現場の実現に貢献する防爆関連機器

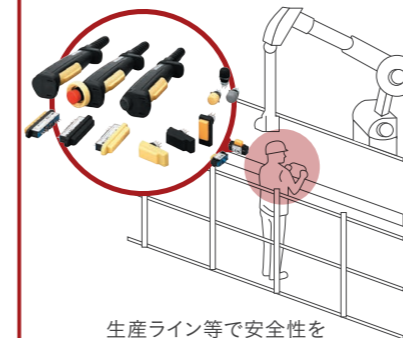
IDECでは70年以上にわたる防爆技術の研究開発に基づき、時代の変化に即しながら、爆発性ガスを扱う石油プラントや倉庫などで使用できる多様な防爆関連機器を開発してきました。

可燃性ガスや液体が存在する現場では、安全確保のために通常の制御機器ではなく、防爆エリアでも使用できる防爆製品が必要不可欠です。IDECグループの強みや知見を融合し、2019年には業界で初めて国内防爆検定を取得した、侵入・存在検知が可能な防爆マットスイッチの販売を開始しました。今後も幅広い業界における産業事故を防止し、安全・安心な生産現場の実現に貢献できる製品開発に取り組んでいきます。

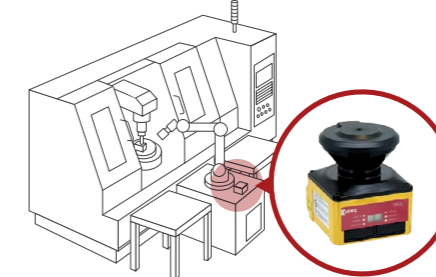
業界で初めて国内防爆検定に合格



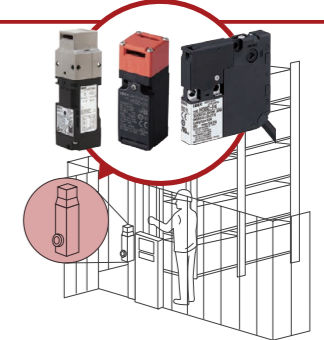
### 主な活用シーン



生産ライン等で安全性を確保するインバールスイッチ



エリア内の存在検知が可能なセーフティレーザスキャナ



扉や安全柵の開閉を検知し安全対策に役立つ安全スイッチ

## 事業戦略

### 安全・安心分野のさらなる強化を推進

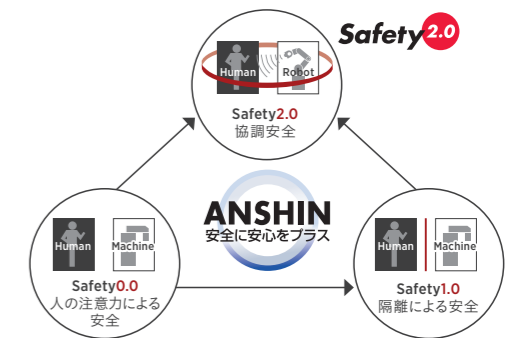
2018年に感圧スイッチの国内主要メーカーである株式会社東京センサがIDECグループに加わったことで、テープスイッチや、無人搬送車(AGV)等に使用される衝突検知が可能なバンパースイッチ等、安全・安心関連機器のラインアップが揃い、多様なニーズに対応可能となりました。2019年にIDEC本社が株式会社東京センサを吸収合併したことで、生産・販売および技術開発等の一体運営による効率化を図り、グローバルへの拡販を推進していきます。



### 協調安全/Safety2.0のリーディングカンパニー

安全への考え方は、人の注意力や判断力により安全を確保してきたSafety0.0にはじまり、機械側に安全対策を施し隔離と停止により安全化を図るSafety1.0、そして近年では、人と機械が協調し、安全性と生産性の両立を実現するSafety2.0へと、時代とともに変遷しています。

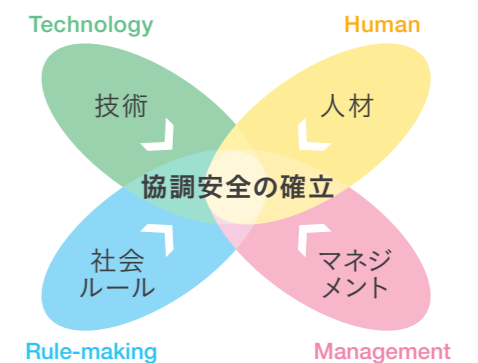
次世代の安全思想である協調安全/Safety2.0を追究し、実現するために、IDECが保有する安全技術やノウハウにIoTやAI技術を組み合わせることで、人と機械が安全柵なしに同じエリアで作業をする現場においても安全性と生産性を向上できる新しい製品開発に取り組んでいます。2019年からは「Safety2.0適合審査登録制度」を活用することで、Safety2.0の時代に最適な製品の開発やソリューションを提案し、より安全な社会の実現に貢献します。



### 世界一安全・安心を追究・実現する企業へ

協調安全/Safety2.0は、技術開発に加え、人材育成、マネジメント、社会ルール形成の4つの側面から包括的にアプローチすることで、安全性と生産性の向上を実現します。

他社との協業を通じた技術開発や、ロボット・セーフティセッサ等の安全のプロフェッショナル人材の育成、安全・健康・ウェルビーイングの向上を図るVision Zeroへの参画、国際標準化活動の推進等を通じて安全・安心の新たな潮流を形成し、業界業種の垣根を越えてグローバルへの拡大を図っています。



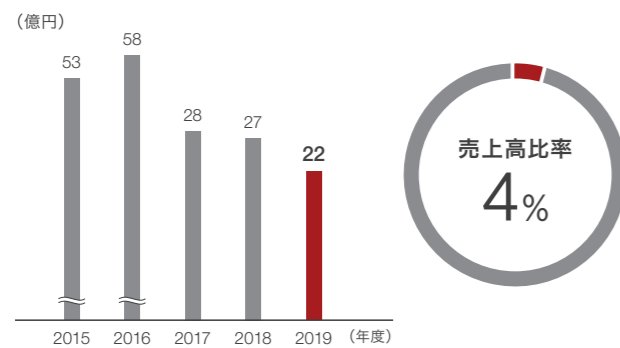


New Business **新規事業**

**制御技術を活用した多様なソリューションで、社会課題の解決に貢献します。**

IDECグループの新規事業は、IDECファクトリーソリューションズ株式会社を中心とする協調安全ロボットシステム事業と、IDECシステムズ&コントロールズ株式会社を中心とする環境・エネルギー関連事業を主な領域として展開しています。産業現場での労働力不足や地球温暖化などの社会課題に、IDECグループ一丸となって貢献しています。

**売上高推移**



**2019年度の業績**

環境・エネルギー関連事業の売上は、前年度に比べて減少したものの、営業利益額、営業利益率は過去最高となりました。協調安全ロボットシステム事業については、中小企業を含む多様な企業向けに導入事例が増加するなど、売上は堅調に推移しました。

**事業戦略**

**協調安全ロボットシステム事業**

IDECの強みである安全関連機器や安全システムを軸に、各種メーカーの協働ロボットやビジョンセンサ、人工知能(AI)、自律走行搬送ロボット(AMR)などを組み合わせたシステムと多様なアプリケーションパッケージを、顧客ニーズに合わせてご提供しています。



**環境・エネルギー関連事業**

自家消費型ソーラー発電をはじめとする再生可能エネルギーや、BCP(事業継続計画)対策のための電力供給、次世代農業ソリューション、それらを連携させた生産、物流、店舗までのサプライチェーン全体におよぶストアソリューションなど、長年培ってきた制御技術、環境技術を活かして、グローバルレベルで進行するさまざまな社会課題の解決に貢献しています。

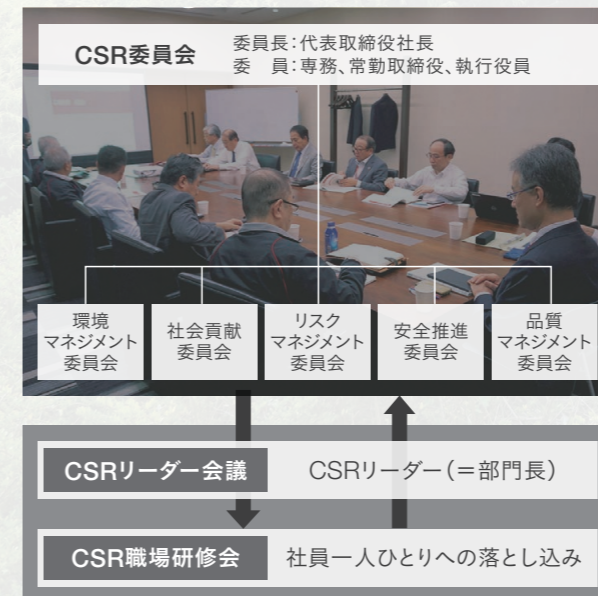


E S G + Sa + Q  
Environment Social Governance Safety Quality  
**経営と一体となった  
CSR活動**

IDECグループは、創業の理念である「人間性尊重経営」を最も重要な基盤とし、IDECグループを取り巻く全てのステークホルダーの皆さまの幸せを最大化することを大切にしています。これを推進するための取り組みとして『The IDEC Way』、CSR憲章、そして国連グローバル・コンパクト10原則に基づいたCSR活動を行っています。CSR活動を、経営の重要課題と位置づけ、CSRマネジメント体制を構築しています。

**CSR推進体制**

IDECグループは、2018年4月より、持続可能な社会の実現に向けて企業の社会的責任を果たすため、代表取締役社長を委員長とする「CSR委員会」を設置しました。ESGに私たちの強みである「安全」「品質」を加えた5つの分野の専門委員会を設け、独自のCSR活動を推進しています。各専門委員会の委員長は執行役員とし、専門知識や経験を持ったメンバーで構成し、テーマに即した施策に取り組んでいます。CSR委員会は年2回開催し(2019年度は4月、10月)CSR活動全般および各専門委員会の取り組みについて審議・承認し、CSRリーダー会議、CSR職場研修会を通じて全ての社員へ展開しています。



**サプライチェーン全体で取り組むCSR**

社会の持続可能な発展に貢献することを目的に、サプライヤーさまと協力し、国内外でCSR調達を推進しています。IDECの主力工場の一つである中国・蘇州の生産拠点では、2017年より毎年「お取引先さま交流会」を開催しており、2019年は「CSR調達説明会」を実施しました。サプライチェーン全体で取り組む重要性についてご説明し、併せて「IDECグループ CSR調達ガイドライン」に則った責任ある調達推進への理解と協力を要請しました。



中国・蘇州でのCSR調達説明会 (2019年11月18日)

**IDECグループCSR調達推進計画**

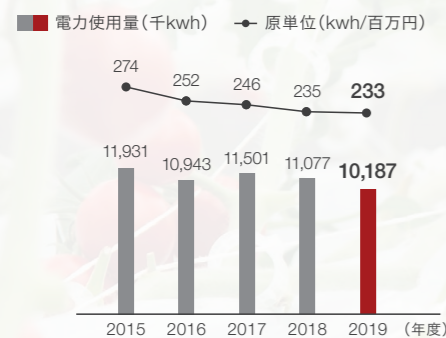
2018年度	「IDECグループCSR調達ガイドライン」制定 CSR調達説明会(国内) CSR調達の実態調査アンケート
2019年度	サプライヤーさまへの訪問確認 CSR調達説明会(中国・蘇州) CSR監査計画策定
2020年度	<b>サプライヤーさまへのCSR監査実施</b> <b>国際社会に通用するものづくりを実現する</b> <b>サプライチェーンの構築へ</b>

ESG+Sa+Q

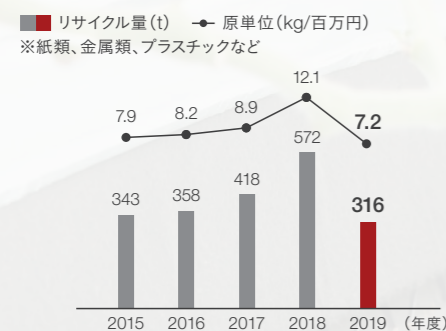


IDECグループは、事業活動の全ての面で環境の保全を最重要課題として行動し、持続可能な発展を目指しています。また、グループ全体で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO 14001認証の取得を推進しています。

電力使用量 (IDEC単体)



リサイクル量 (IDEC単体)



脱PETボトルチャレンジ

海洋汚染などPETボトルが地球環境に与える悪影響を低減するため、「脱PETボトルチャレンジ」と題し、本社はじめ国内主要事業所にて以下の取り組みを実施しています。

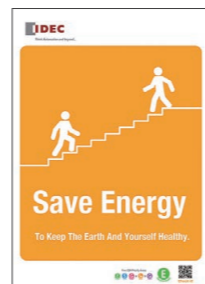


社内での取り組み

「IDECグループ グリーン調達ガイドライン」に基づき、環境負荷の少ない原材料や部品、設備などを優先的に調達する「グリーン調達」を行っています。また、「グリーン購入手順書」に基づき、環境負荷の少ない事務用品、消耗品、器具备品類を優先して購入する「グリーン購入」も推進しています。

そのほか、社員一人ひとりに環境に配慮した行動を促すため、階段利用を推奨するポスターや、空調の省エネを推奨する卓上POPを社内に掲示しています。

上: 階段利用啓発ポスターをエレベータ前に掲示  
下: 暖房の推奨温度を記載した卓上POPを会議室に設置



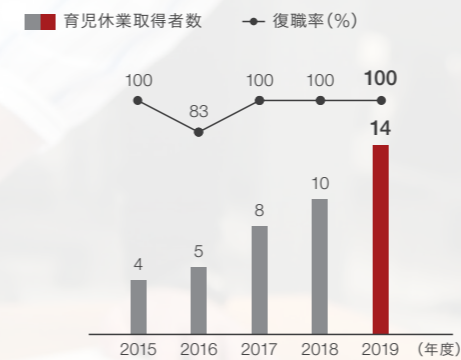
環境に配慮した製品開発

製品開発の企画段階から環境負荷を低減するための課題を抽出し、省エネ性向上・省資源・省スペース・長寿命化といった環境配慮について独自の基準を設定しています。それに基づき環境配慮度の評価・判定を行い、製品毎にランク付けしています。また、環境配慮型製品に該当する製品やサービスであることを示すシンボルとして、環境ラベルマークをデザインしました。お客さまにも容易に判別していただけるよう、ウェブサイトやカタログでのラベル表示を進めていきます。

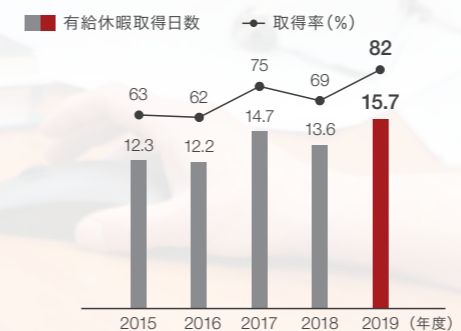


IDECグループは「人間性尊重経営」に基づき「全ての人々に幸福と安心をもたらす、より安全で持続可能な社会の実現」のため、社会課題に応える活動を継続的に実施し、社会との良好な関係を構築していきます。

育児休業後の復職率 (IDEC単体)



有給休暇取得率 (IDEC単体)



人権の尊重

IDECグループは人間性を尊重し、人種・性別・国籍・宗教・障がい差別等のないダイバーシティを推進した環境づくりに努めています。

これまでの人権啓発教育を充実させるため、2019年より、ハラスメントやLGBTへの理解促進として「人権・ハラスメント研修」を実施しています。また、APEM社では、仕事を見つけるのが困難な人々の雇用を支援するフランス政府の施策「La France, une chance.」に参画し、関係者と情報を共有しながら活動を展開しています。



「La France, une chance.」 APEM関係者

健康への取り組み

IDECグループでは、社員とその家族が「心身ともに健康である」ことが全ての基盤であるという認識のもと「IDECグループの健康宣言」を制定し、健康経営に取り組んでいます。



IDECヘルスケアセンター(本社)での保健師面談

毎年の健康診断に加え、ストレスチェックの実施や保健師(本社常勤)・産業医面談実施等を通じ、健康状態の改善と把握に努めています。

特に優良な健康経営を実践している企業として「健康経営優良法人 2020」の認定を受けています。



ライフワークバランス

2019年7~8月に本社、滝野事業所(兵庫県)、中国の蘇州和泉電気で子ども参観日を行いました。子どもたちが会社を訪れることで、家族と会社、そして仲間との一体感を促進し、社員が働きやすい環境を醸成しています。

また、雇用・働き方が大きく変化する社会のなかで、キャリア形成、活躍の機会提供を実践している企業を表彰する、東洋経済新報社の「第2回プラチナキャリア・アワード」で「東洋経済賞」を受賞しました。

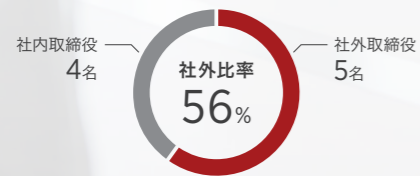
今後も、社員がいそいそと安心して働くことができる「ライフワークバランス」を実現し、働きやすい環境づくりを推進していきます。



本社での子ども参観日参加者

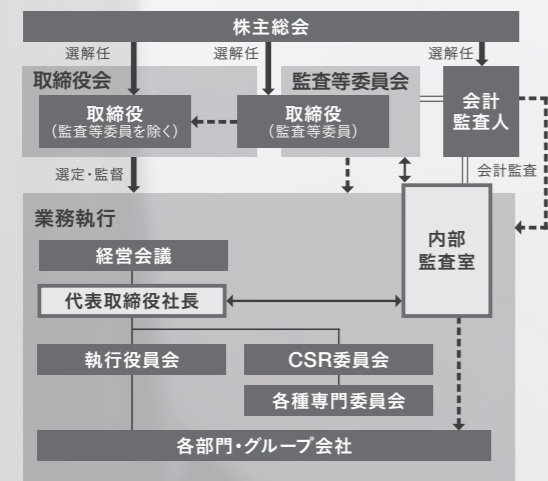
IDECグループは、株主さまをはじめとするステークホルダーに対して、経営の透明性と効率性を確保するために、ガバナンス体制のさらなる強化を推進します。

社外取締役比率(2020年6月時点)



取締役会は、取締役4名(うち社外1名)と、監査等委員である取締役5名(うち社外4名)の計9名で構成され、社外役員を多く任用し経営の透明性を確保しています。

ガバナンス体制



— 連携 ← 指示・報告 → 監査

社外役員交流会

経営トピックスや取り組むべきテーマに関する知識を深め、意見交換することを目的に、取締役会とは別に社外役員同士がコミュニケーションを強化する場として「社外役員交流会」を開催しています。2019年度は「グローバル経営」をテーマにした交流会を開催し、執行役員6名も交えて活発な意見交換を行いました。



コンプライアンス

『The IDEC Way』の制定を踏まえて、職務を行ううえでの基本的な行動指針を「IDECグループ行動基準(第4版)」として見直し、グローバルな行動基準として作成を進めています。また、入社年数や職責に応じた階層別研修においてコンプライアンス研修を実施し、業務中での気づきを促進できるようにコンプライアンス意識の醸成を図っています。

内部通報窓口である「IDECホットライン」も活用し、コンプライアンス違反の芽を早期に発見・対処できる体制を構築しています。



リスクマネジメント

リスクマネジメント委員会において、業務を行ううえで起こりうるリスクを想定し、その影響度や発生頻度を試算してリスクマップを策定しています。その中から各年毎に対処するターゲットリスクを定め、全社および各部門がリスク低減に向けた対策を実施しています。

主なターゲットリスク	主な対策
地震等災害時対応	緊急時対応体制と責任者の明確化 出退社基準の策定
製品事故発生防止	QMSの手順書、帳票の整備
システム障害回避	システムの24時間監視、障害対応クラウドを利用したバックアップ検討
ハラスメント対策	研修会の実施、相談窓口の周知
法令コンプライアンス	関連法規の勉強会実施

役員紹介

取締役



船木 俊之  
代表取締役会長兼社長



船木 幹雄  
代表取締役専務



山本 卓二  
常務取締役



小林 浩  
取締役



藤田 慶二郎  
取締役



川人 正孝  
取締役



金井 美智子  
取締役

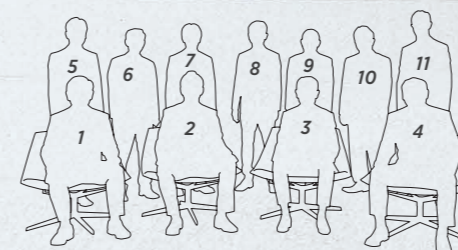


八田 信男  
取締役



姫岩 康雄  
新任 取締役

執行役員



- 1 赤松 浩二  
常務執行役員  
生産・SCM担当
- 2 藤田 俊弘  
常務執行役員  
技術戦略担当
- 3 Arnaud Mondy  
常務執行役員  
マーケティング戦略担当
- 4 河中 泰治  
常務執行役員  
国内営業担当 中国事業推進担当(兼)
- 5 釣 正樹  
執行役員  
品質保証担当
- 6 西山 嘉彦  
執行役員  
経営管理担当
- 7 吉見 晋一  
執行役員  
経営戦略企画担当
- 8 松本 敦  
執行役員  
開発担当
- 9 錦 朋範  
執行役員  
技術開発担当
- 10 原田 博丞  
執行役員  
新規事業開発担当
- 11 Marc Enjalbert  
執行役員  
APEM担当



ESG+Sa+Q

Webサイトでの情報開示  
<http://jp.idec.com/ja/csr>  
 IDECグループの詳細なCSR情報はWebサイトよりご覧いただけます。



Sa

Safety

安全

IDECグループは、グローバル社会での安全で快適な環境づくりのため、全ての事業活動において常により高い安全性を実現し、世界一安全・安心を追究・実現する企業を目指しています。

**セーフティオフィサ、セーフティセッサおよびセーフティベーシックセッサ有資格者数**  
 (2020年4月時点)

**411名** | 前年度比 +49

**ロボット・セーフティセッサ有資格者数**  
 (2020年4月時点)

**118名** | 前年度比 +22

**安全セミナー・防爆セミナーの累計開催回数および受講者数**  
 (IDEC単体)

年度	累計開催回数	累計受講者数(名)
2015	1,421	34,195
2016	1,484	35,245
2017	1,570	37,115
2018	1,624	38,254
2019	1,733	40,099

安全教育

「安全・安心」を社会に提案し啓発できる人材育成を目的として、全正社員向けに安全研修を実施しています。安全に関わる業務を行っている社員がセーフティエバンジェリストとして講師を務め、IDECグループの安全の歴史や考え方、安全製品のほか、協調安全/Safety2.0などの最新動向を伝えています。



安全研修の様子

セーフティセッサ資格者の育成

国際安全規格に基づいた安全なものづくりや安全コンサルティングを行うため、資格制度発足以来、継続して社員にセーフティセッサ資格の取得を奨励しています。その結果、最上位資格であるセーフティリードセッサの有資格者数は国内トップとなっています。また、2018年に新設され、ロボット分野の基本安全知識の保有を認証する「ロボット・セーフティセッサ」資格の取得も奨励するなど、ロボット安全分野の人材強化にも注力しています。

※セーフティセッサ資格とは経済産業省の基準認証事業で(一社)日本電気制御機器工業会が開発し、日本認証(株)が実施しているグローバルに通用する機械・制御・防爆安全に関する安全技術者や管理者を育成する資格認証制度です。

協調安全/Safety2.0 ガイドブックの発行

人と機械・ロボットが協調作業を行い、安全性と生産性の両立を実現する概念である「協調安全/Safety2.0」の最新潮流やIDECグループの取り組みを紹介する冊子を作成しました。IDECは世界一安全・安心を追究・実現する企業として、「協調安全/Safety2.0」を安全に関するイノベーションとして啓発活動を行っています。



社内外で協調安全の啓発に活用

ISO 45001 認証取得

兵庫県にある滝野・福崎・尼崎の3事業所で、労働安全衛生マネジメントシステムの国際規格であるISO 45001 認証を取得しています。2020年度は、竜野物流センターを加えた4拠点での認証取得を目指しています。

Q

Quality

品質

IDECグループは、「製品の価値を品質におく」ことを基本姿勢とし、「安全」「安心」な製品やサービスをお届けするため、品質マネジメントシステムを基盤とした開発・生産・販売・サービス提供に取り組んでいます。

**過去5年間の品質管理検定の級保持者数推移**

年度	級保持者数(名)
2015	493
2016	542
2017	555
2018	614
2019	646

**品質管理検定(QC検定)の級保持者数**  
 (2019年11月時点)

**646名** | 前年度比 +32

級別	保持者数
1級	1名
準1級	7名
2級	64名
3級	426名
4級	148名

品質教育

社員一人ひとりの品質の知識および意識向上を目的として、品質管理検定の受検を奨励しています。また、社員への品質管理研修を継続的に行っています。



一丸となって作業の安定化に向けた対策を立て、昨年に続き入賞した中国のサークル

これらによって学んだことを業務で活かす場として、各拠点に自主改善活動グループであるQCサークルが存在し、改善提案を行い、品質向上や業務の効率化に取り組んでいます。

2019年11月に開催した第5回QCサークル発表大会では、日本・中国・台湾・タイの拠点から選抜された11サークルが活動を発表しました。

グローバル品質会議の開催

グローバルレベルで品質に対する意識改革を図り、生産拠点間の連携を強め、品質管理体制の向上を図ることを目的として、2017年よりグローバル品質会議を毎年開催しています。2017年は中国、2018年は台湾、第3回となる2019年はタイで開催しました。各国から品質管理に携わる社員が参加し、品質に関わる取り組みの報告や



タイで開催した第3回グローバル品質会議(2019年12月12~13日)

ディスカッション、品質課題についてグループワーク等を行い、課題やノウハウを共有しました。

ISO 9001 認証取得

品質を備えた製品やサービスを提供するため、品質マネジメントシステムを構築し、品質マネジメントシステムの国際規格であるISO 9001 認証を取得しています。



IDECグループ ISO 9001 認証登録会社名

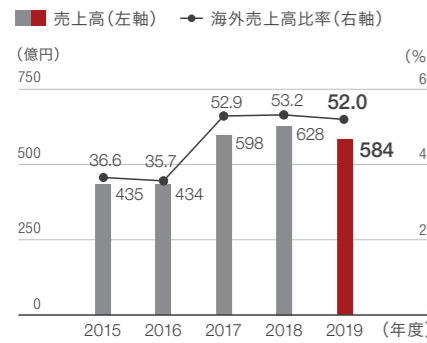
- IDEC株式会社
- APEM Components Ltd.
- IDECファクトリーソリューションズ株式会社
- MEC Aps
- IDEC ASIA (THAILAND) CO., LTD.
- APEM Inc.
- 台湾愛徳克股份有限公司
- SACEMA
- 蘇州和泉電気有限公司
- SAMELEC
- APEM SAS
- APEM Wujin Electronic Co., Ltd.

財務データ・非財務データ

財務データ 連結

売上高

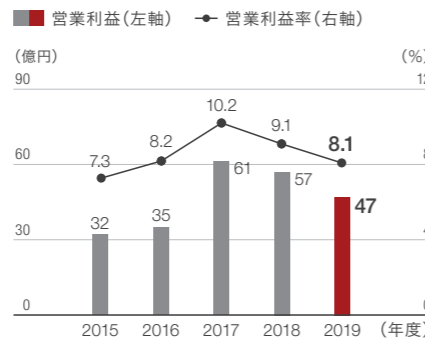
584億円 | 前年度比 -7.0%



米中貿易摩擦の影響などにより、国内外で各種製品群の売上が減少しました。また円高の影響もあったことから、海外売上高比率は52.0%となり、前年度比で減少しました。

営業利益

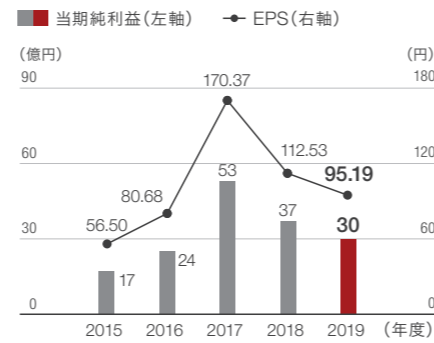
47億円 | 前年度比 -17.9%



生産拠点の再編や不採算製品の見直しなどにより収益性の向上を図ったものの、スイッチをはじめとする主力製品群の売上が減少したことなどから、営業利益率は8.1%となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

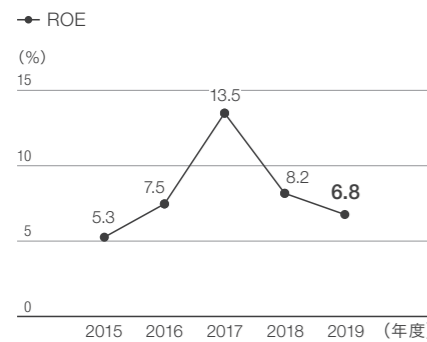
30億円 | 前年度比 -18.8%



投資有価証券売却益を計上したものの、アジア・パシフィックにおいて、子会社再編損や事業所移転損失が発生しました。その結果、当期純利益は前年度比で減少しました。

ROE

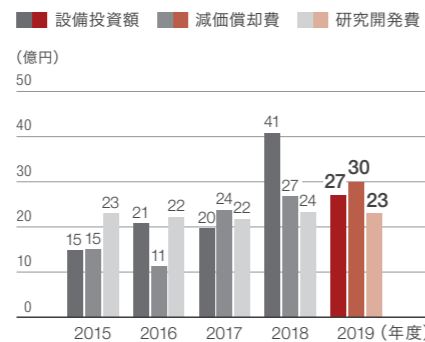
6.8% | 前年度比 -1.4pt



厳しい事業環境の影響により当期純利益が減少したことなどから、ROEは6.8%と前年度比で減少しました。

設備投資額

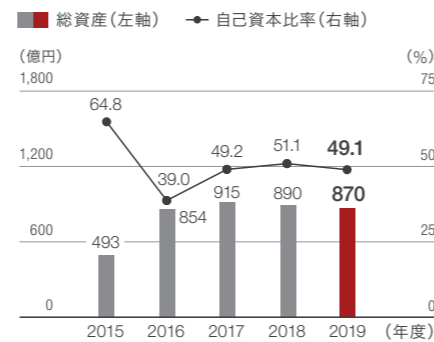
27億円 | 前年度比 -35.2%



2018年度の設備投資額は、生産拠点の再編を国内外で実施したことから増加しましたが、2019年度は減少しました。

自己資本比率

49.1% | 前年度比 -2.0pt

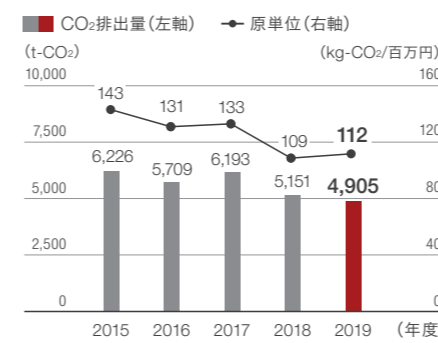


APEM社を買収した2016年度に自己資本比率が40%を下回ったものの、その後は50%前後で推移しています。

非財務データ IDEC単体

CO<sub>2</sub>排出量

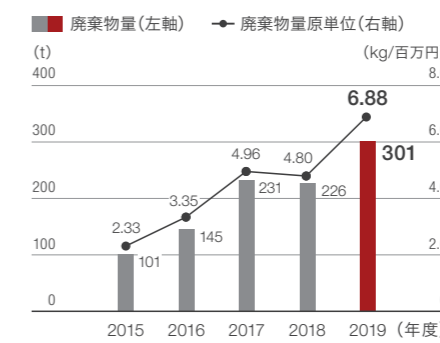
4,905t-CO<sub>2</sub> | 前年度比 -246t-CO<sub>2</sub>



クールビズの実施や、階段利用の推奨、照明光源のLEDへの切り替え、不要時の照明消灯の啓発など社内での節電に努める一方、関西圏に4か所の太陽光発電所を設け自然エネルギーの活用を進めています。

廃棄物量

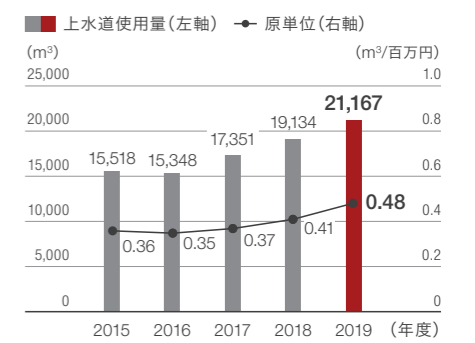
301t | 前年度比 +74t



廃棄量をより少なく製品生産ができる金型に改良しているほか、不良率を低減することにより材料の廃棄ロスを減らすよう取り組んでいます。一方で、中国の廃棄物輸入規制にともない、廃棄物の全体量が増加しました。

上水道使用量

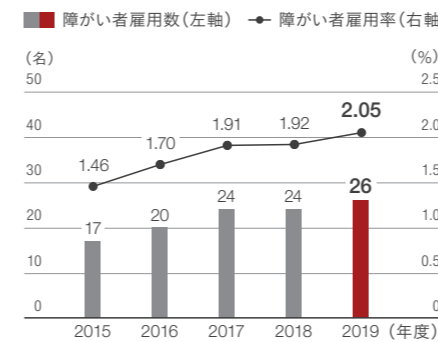
21,167m<sup>3</sup> | 前年度比 +2,033m<sup>3</sup>



本社にて雨水を貯蔵し、中庭や屋上庭園の植栽への散水に利用するなど節水に取り組んでいます。一方、2019年度に木場事業所およびアSEMBルセンターを開設したため、全体での利用量は増加しました。

障がい者雇用数・率

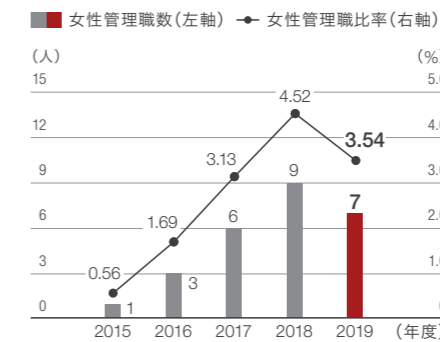
2.05% | 前年度比 +0.13%



障がい者向けの職場見学会を開催し、社内見学や会社説明を行っています。職場適応・就労定着に向け、障がい者の配属部署の社員向けに受入れ研修を実施しているほか、ジョブコーチ支援事業を利用しています。

女性管理職数・比率

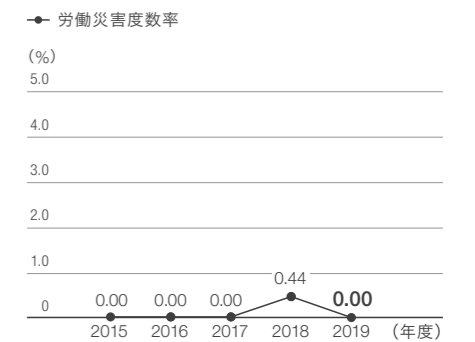
3.54% | 前年度比 -0.98%



女性活躍推進に関する行動計画を策定し、次世代幹部候補として女性を積極的に選抜し、育成プログラムを実施しています。2022年度までに女性管理職比率10%の達成を目指しています。

労働災害度数率

0.00% | 前年度比 -0.44%



生産拠点の社員による労働安全衛生環境の「気付き報告」を実施し、現場の意見を吸い上げて対応しています。外国人技能実習生向けに、緊急避難指示や安全方針・安全マニュアル等を母国語で掲示しています。

## 会社紹介

### 企業概要

社名	IDEC株式会社
英文社名	IDEC CORPORATION
設立	1947年3月26日
資本金	10,056,605,173円
社員数	連結3,683名(2020年3月31日現在) ※特定社員・臨時社員含まず
上場取引所	東京証券取引所市場第1部
本社/技術研究センター	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原2丁目6番64号 電話:06-6398-2500(代表)
東京本社	〒108-6014 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟14階) 電話:03-5782-7690(代表)
事業所	尼崎、福崎、滝野、木場
営業所	仙台、高崎、大宮、土浦、東京、多摩、横浜、長野、新潟、 金沢、浜松、名古屋、京都、大阪、岡山、広島、四国、 福岡
物流センター	竜野



本社



東京本社



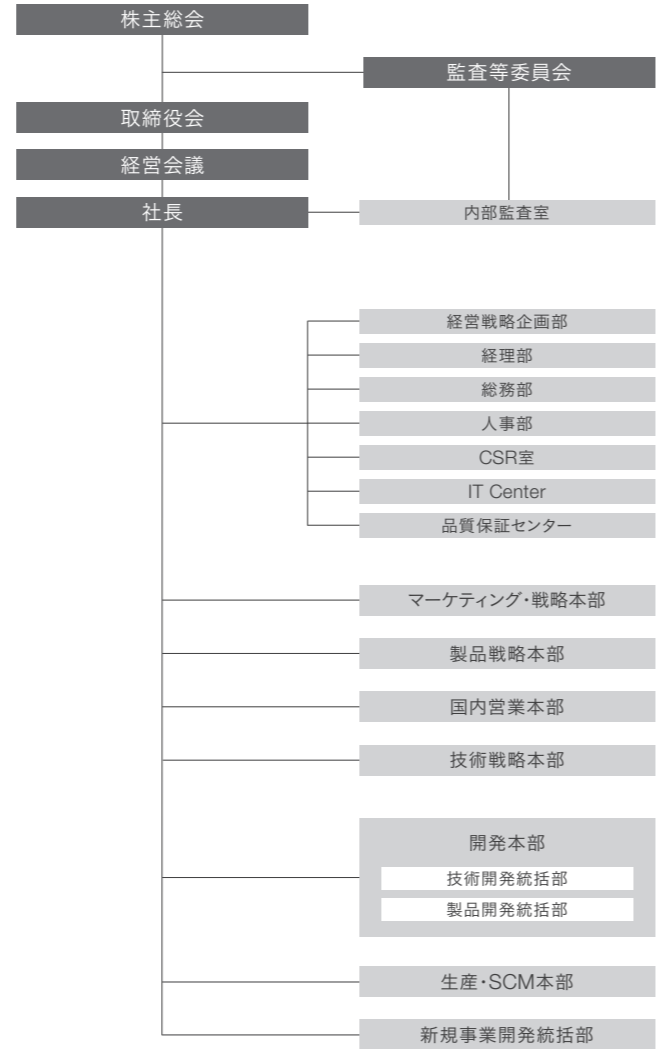
尼崎事業所



滝野事業所

### 組織図

2020年4月現在



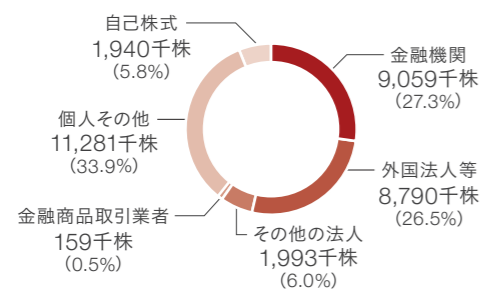
### 株式の状況

2020年3月31日現在

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	33,224,485株
株主総数	8,890名

### 所有者別分布

2020年3月31日現在



### 大株主(上位10位)

2020年3月31日現在

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,666	14.92
JP MORGAN CHASE BANK	3,168	10.13
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,352	7.52
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	1,680	5.37
有限会社松木興産	1,041	3.33
THE BANK OF NEW YORK MELLON (INTERNATIONAL) LIMITED	673	2.15
藤田 慶二郎	651	2.08
資産管理サービス信託銀行株式会社	491	1.57
BBH FOR GLOBAL X ROBOTICS AND ARTIFICIAL INTELLIGENCE ETF	479	1.53
DATALOGIC S.P.A	477	1.53

(注)上記大株主の記載は、有価証券報告書の開示内容に準じています。

## IDECロゴ・ショルダーフリーズ



### コーポレートシンボルに込められるメッセージ

コーポレートシンボルには、「社員同士や取引先・社会など、さまざまなステージでの人と人とのつながり、発想の転換」、「事業領域の拡大・未来への成長、全てにおいて一歩先を進む」のメッセージが込められています。

白抜きの「I」とすぐ右に隣接しているIDECレッドの「I」は、人と人とのつながりを象徴しています。また、白抜きと色付きというネガとポジの関係は、陰からサポートする姿勢や発想の転換を表現しています。

先端・左に大きく広がるIDECグレーは、さまざまなコラボレーション、パートナーシップから生まれる新しい可能性や付加価値の創造、事業領域の拡大と未来への成長、そして、全てにおいて常に時代の一歩先へ進むIDECの姿を象徴しています。

### コーポレートカラー

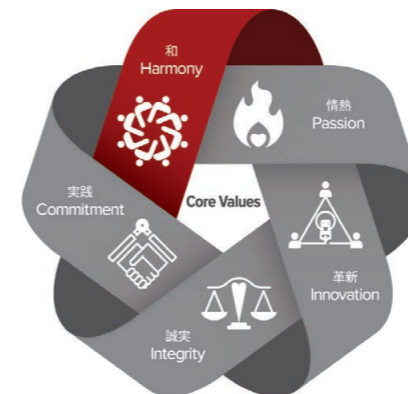
コーポレートシンボルの「IDEC」部分に採用したIDECレッドの『赤』は、「情熱」「飛躍」「躍動」「スピーディー」という、動的な活力とエネルギーを感じさせ、表現しています。

### ショルダーフリーズ

IDECはオートメーションを考え、さらにその先へ...、ものづくりの未来を創造していきます。

私たちの描くオートメーションの進化とは、単なる自動化技術の進化だけではありません。安全性や、操作性、信頼性、環境配慮など、人に優しい技術やさまざまな要素を進化させることによって従来の自動化技術にさらなる付加価値を与え、それら全体の進化によってオートメーションの可能性を拡大していく、それこそがこれからのオートメーションの進化であると考えています。

## Core Values



- Harmony 和**  
ビジョン実現のために全てのステークホルダーと協調する。
- Passion 情熱**  
常に情熱と誇りを持って、楽しく最高のパフォーマンスを追求する。
- Innovation 革新**  
お互いの個性を活かし、失敗を恐れず挑戦することで、進化し続ける。
- Integrity 誠実**  
何事にも真摯に向き合い、誠実・公正に行動することで、信頼される存在であり続ける。
- Commitment 実践**  
オーナーシップを持ち、スピーディーかつ効率的にそれぞれの役割を遂行する。